

第三章 分析結果

3-1 和歌山県イメージ分析

3-1-1 環境イメージ要素の頻度分析

(1)和歌山県全体における大分類の頻度分析

分類体系の大分類における和歌山県全体のイメージ要素の出現率は、「山」(56.54)、「川」(49.62)、「海」(33.08)、「歴史」(2.88)、「平野」(1.35)、「池」(0.58)、「丘」(0.58)、「谷」(0.19)、「森」(0.19)という順になっている(図3-1)。

「山」に関する語が多く出現し、「平野」に関する語があまり出現しない。これは平野部が少なく、山が多い県土である。また、「川」に関する語と「海」に関する語が多く出現することから、和歌山県が水辺に近く、水に親しみやすい県土であるというイメージを投影していると思われる。更に、「歴史」に関する語があまり出現しないことから、校歌に歴史をあまり詠まない県土であるといえる。

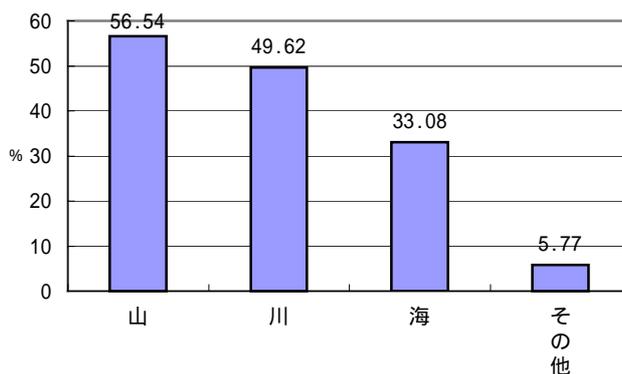


図3-1 和歌山県全体における大分類環境要素頻度

(2) 和歌山県全体における中分類の頻度分析

分類体系の中分類における和歌山県全体のイメージ要素の出現率は、「紀ノ川水系」(23.3)、「長峰山系」(17.1)、「太平洋」(13.1)、「紀伊水道」(12.7)、「果無山系」(10.4)、「和泉山系」(8.3)の順に多くなっている(図3-2)。このことは、和歌山県下でも学校が多数存在する紀北地方を、貫流している紀ノ川流域近辺の、視覚的な認知がしやすい「紀ノ川水系」や、「高野山」を含んでいる「長峰山系」、「紀伊水道」、「和泉山系」が多く出現しているという特徴があるといえる。

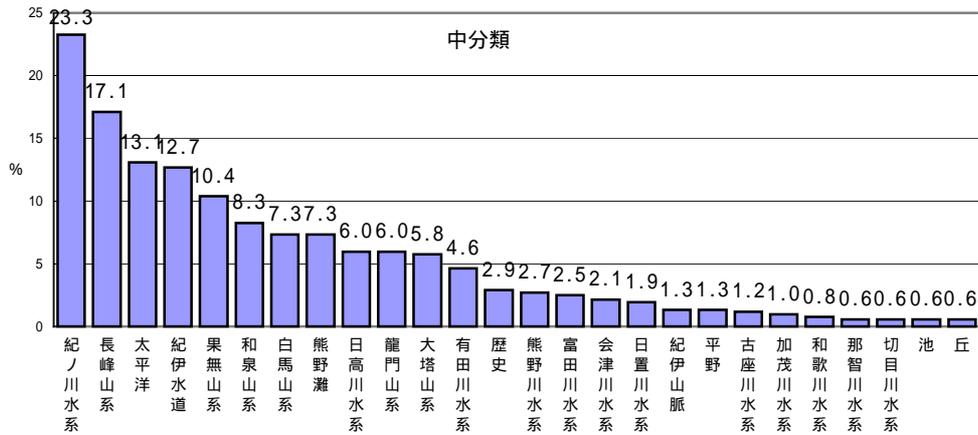


図 3-2 和歌山県全体における中分類環境要素頻度

(3) 和歌山県全体における小分類の頻度分析

分類体系の小分類における和歌山県全体のイメージ要素は、「紀ノ川」(16.7)、「黒潮」(11.7)、「葛城山」(5.8)、「日高川」(5.0)、「有田川」(3.5)の順になっている(図 3-3)。上位5つのうちの「紀ノ川」「日高川」「有田川」は、下流に和歌山県下では数少ない平野部を有している川で、平野部は人口が集まりやすく学校が多くなることから、これらの「川」に近い学校が多いといえ、その近い「川」をイメージする学校が増え、出現数が多くなっている。「葛城山」は紀ノ川流域から視認できる山であること、「黒潮」は和歌山県の温暖なイメージと暖流とのイメージが合致しているということから、また、荒々しいイメージや恵みを与えるイメージから、身近であるため、出現数が多いと考えることができる。

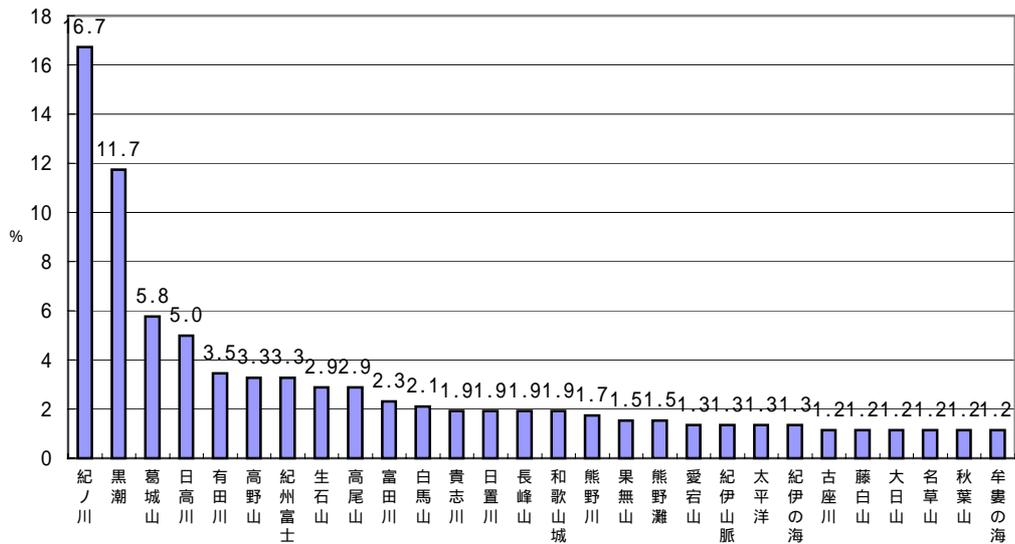


図 3-3 和歌山県全体における小分類環境要素頻度

3-1-2 複数校歌作詞者別における環境要素の頻度傾向分析

(1) 西川好次郎氏による作詞校(図 3-4)

西川好次郎は、日高郡の教員、校長をつとめた人物であり、校歌だけでなく、様々な市歌や社歌等の作詞を手掛けていた¹⁾。

西川好次郎作詞の校歌には、「黒潮」(22)、「日高川」(20)、「紀ノ川」(8)の順に多く、日高郡の人物で、日高郡の学校の教員であったため、日高郡の校歌が多く、日高郡のイメージ要素が多くでてきているが、「黒潮」が最も多く出ていることから、西川好次郎の和歌山のイメージは「黒潮」であるといえるだろう。

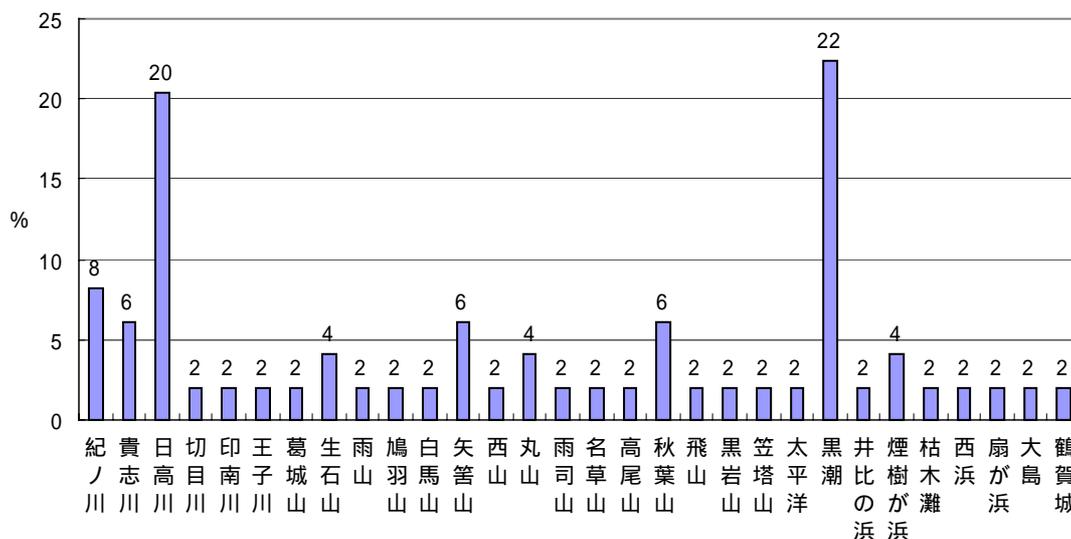


図3-4 西川好次郎作詞校出現率

(2) 高井三氏による作詞校(図 3-5)

高井三作詞の校歌には、「紀ノ川」(30)、「紀州富士」(9)、「黒潮」(9)の順に多くなっており、「紀ノ川」が突出して多いことから、高井三の和歌山のイメージは「紀ノ川」であるといえるだろう。

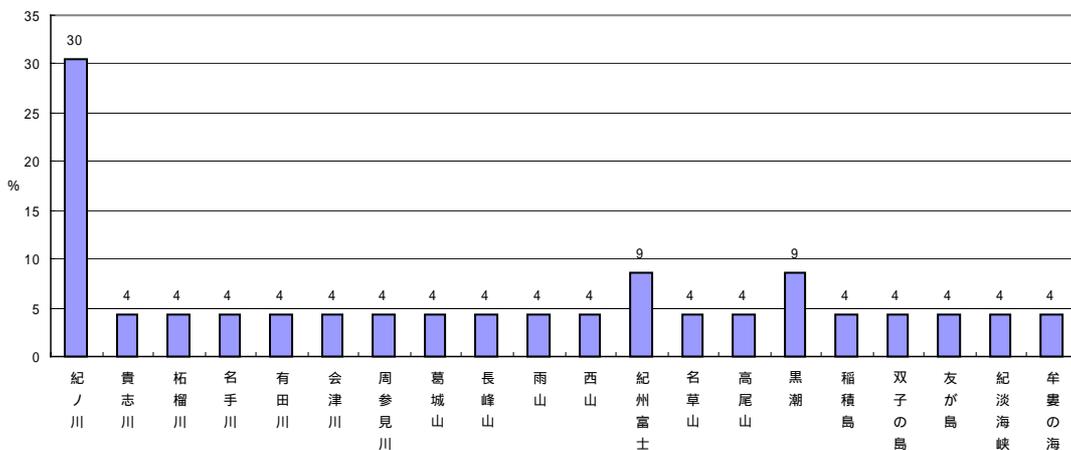


図3-5 高井三作詞校出現率

(3)久世正富氏による作詞校(図 3-6)

久世正富作詞の校歌には、「藤白山」(30)、「古座川」(20)、「大野ヶ原」(20)の順に多くなっているが、作詞した学校が10校で、そのうち海南市の学校が5校、古座川町の学校が2校であるため、久世正富の和歌山のイメージは海南市の「藤白山」、「大野ヶ原」と古座川町の「古座川」になっている。

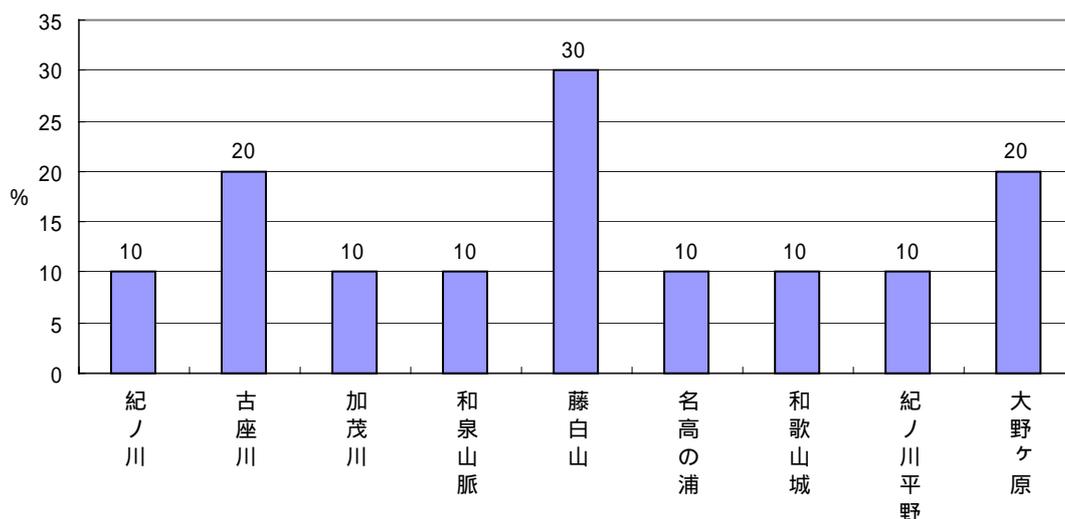


図3-6 久世正富作詞校出現率

(4)佐藤春夫氏による作詞校(図 3-7)

佐藤春夫は、新宮市出身の詩人、小説家である²⁾。

佐藤春夫作詞の校歌には、「牟婁の山」(25)、「黒潮」(25)、「牟婁の海」(25)が相対的に多い要素であるが、これら3つが多いのは、佐藤春夫が新宮市出身であることから、作詞している8校中7校が西牟婁、東牟婁郡であるためであり、「葛城山」(12.5)以外の要素は全て西牟婁、東牟婁郡の要素である。従って、佐藤春夫の和歌山のイメージは、西牟婁、東牟婁郡の「牟婁の山」、「黒潮」、「牟婁の海」になっている。

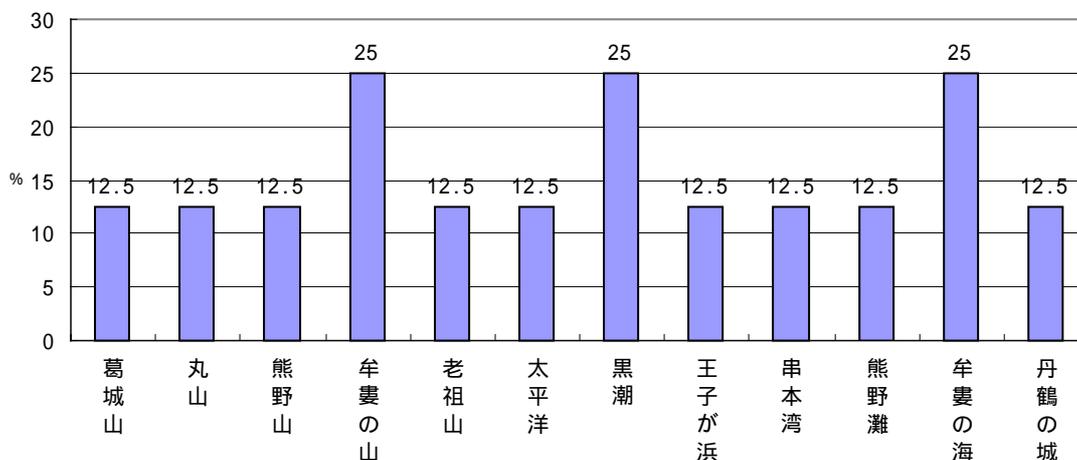


図3-7 佐藤春夫作詞校出現率

3-1-3 環境要素のイメージ分析

(1)川のイメージ分析(図 3-8)

「川」の全体イメージは、“清さ”を表す単語と“流れ”を表す単語で過半数を占めており、“清さ”を表す単語は「清い」、「澄む」が多い。また“流れ”を表す単語は「尽きない」、「止まない」、「永遠」、「永久」といった永続性が多く出ている。

特徴のあるイメージとしては、「母なる姿」、「慈久」というものがある。

その他の比率が高い2つの水系のうち「富田川」のその他のうちの5割以上が「川」の“姿”を詠っており、「熊野川」のその他のうちの5割以上が「単出現」(形容する単語が出現しないもの)になっている。

「川」の県全体のイメージは多くの川で“清さ”と“流れ”の多い傾向は変わらない。

さらに“清さ”、“流れ”に「川」は一般的にこうあるべきだというイメージを出しており、“清さ”、“流れ”の中に生徒にそうあれという教訓をも含んでいると考えることができる。

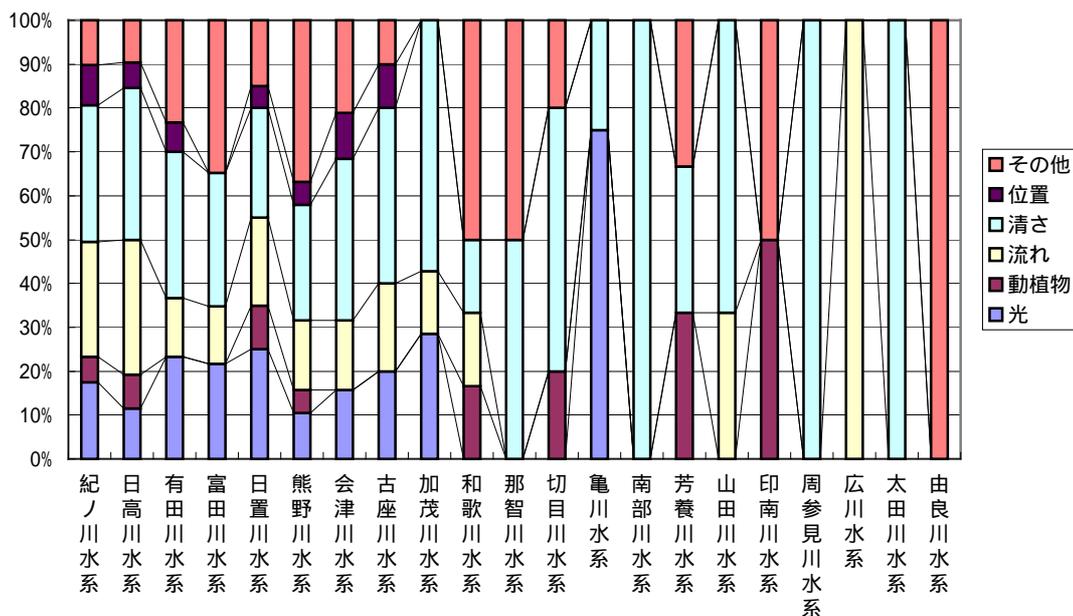


図 3-8 水系環境要素イメージ

(2)山のイメージ分析(図 3-9)

「山」の全体イメージは、“光”を表す単語が多く、“位置”を表す単語も2割近く占めており、“光”を表す単語は「朝」、「晴」といった光の基となるものや「輝く」、「光」といった直接的なものの2種類がある。そして“位置”を表す単語は「仰ぐ」が多く、「東」、「西」、「南」、「北」といった単純に学校からの位置を示したもの、「遠」、「近」といった距離を示したものがある。「軒端」、「指呼の間」といった単語も見ることができ、これらの学校は山の端にあるというイメージを出している。

全体のイメージと異なるもののうち、「長峰山系」は純粋な数の多さの上位 10 中 6 つが“光”を表す単語が出現しているが、しかし“位置”を表す単語については上位 10 中 1 つしか占めていない。したがって“位置”に関する単語の比率が低くなっている。また、「大塔山系」の“姿”を表す単語が上位 3 中 2 つあることから“姿”に関する単語に比重がある。

「山」についての語に関して、“光”と“位置”を表す単語が多く出てくるため、学校からの見える「山」を、東にあれば朝日と、西にあれば夕日と絡めて出現させていると考えることができる。さらに「山」の雄々しい“姿”, 優しい“姿”や、厳しい“姿”等があまり出てこないことから、「山」の場合は、「川」と異なりあまり教訓になっていないと考えることができる。

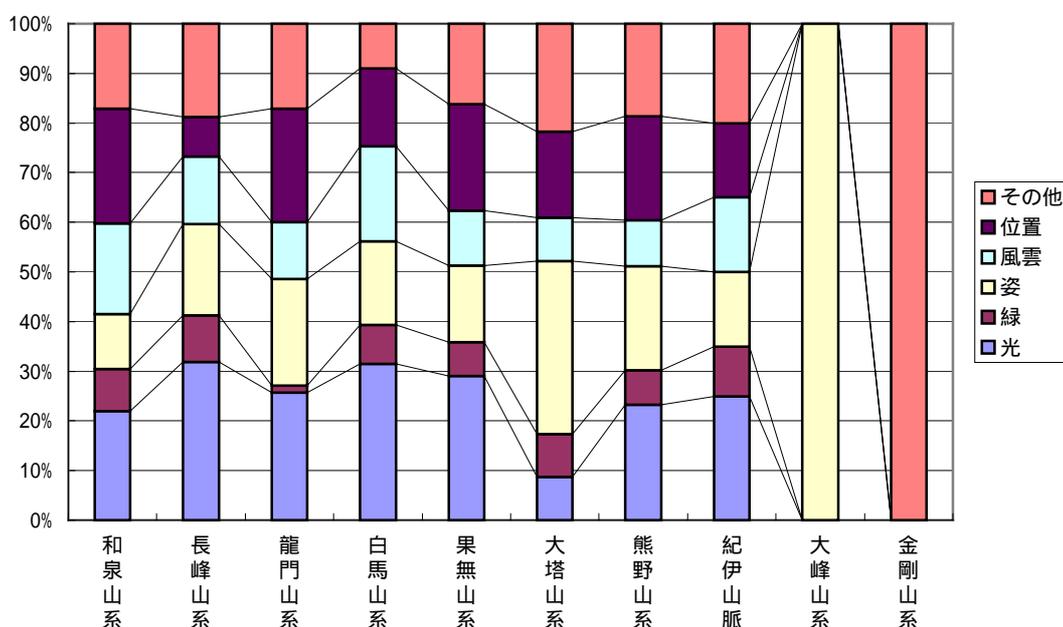


図 3-9 山系環境要素イメージ

(3)海のイメージ分析(図 3-10)

「海」の全体イメージは、“波”を表す単語が突出している

“波”を表す単語は「波」、「飛沫」、「潮」といった直接表現と「洗う」、「踊る」といった波の“姿”を表すものがある

水系、山系と比べ単出現の比率が高い。

これらのことは、「海」の全体イメージが、波に洗われている海岸や、波がうち寄せている海岸をイメージしていることを示しており、「海」の姿に関しては、ほとんど教訓とせず、ただ出ているだけであるといえる。

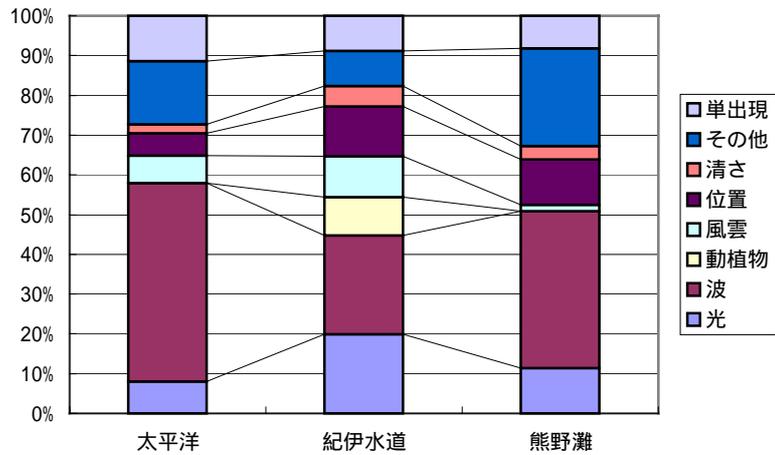


図 3-10 海域環境要素イメージ

3-2 郡別イメージ分析

3-2-1 環境イメージ要素頻度分析

「川」の要素が多く詠まれているのは、那賀郡(81.82)、伊都郡(66.07)、海草郡(50)で、これらの郡では、半分以上の学校に「川」の要素が出てきているといえる(図 3-11)。

「山」の要素が多く詠まれているのは、那賀郡(93.94)、伊都郡(87.5)、西牟婁郡(57.14)、日高郡(54.12)で、これらの郡では、半分以上の学校に「山」の要素が出てきているといえる(図 3-12)。

「海」の要素が多く詠まれているのは、西牟婁郡(60.44)、東牟婁郡(52.63)で、これらの郡では、半分以上の学校に「海」の要素が出てきているといえる(図 3-13)。

以上のことより、海草郡は「川」、那賀郡、伊都郡は「山」、「川」、有田郡はばらついてい
るが「山」、日高郡は「山」、西牟婁郡は「海」、「山」、東牟婁郡は「海」のイメージがある
といえる。

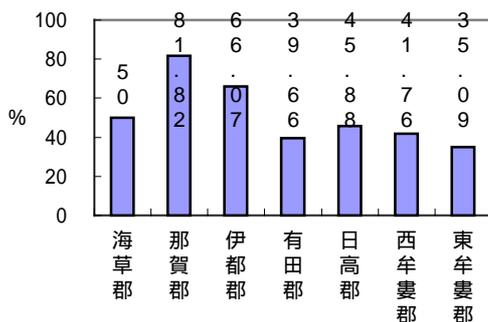


図3-11郡別「川」頻度

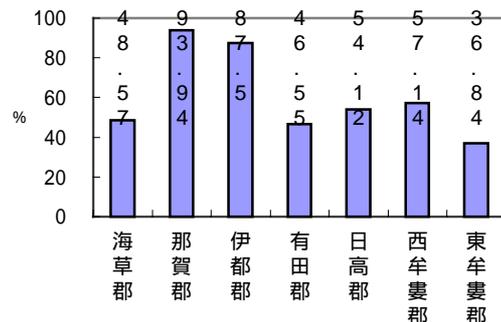


図3-12郡別「山」頻度

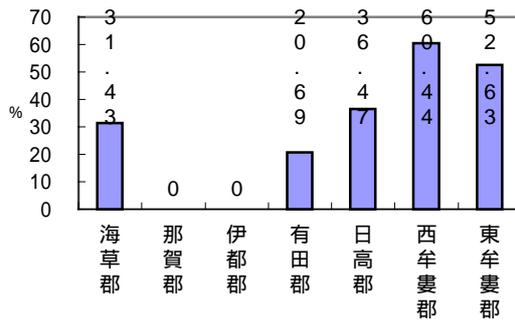


図3-13郡別「海」頻度

3-2-2 環境要素のイメージ分析

(1) 海草郡のイメージ分析

海草郡の「川」のイメージは、“流れ”と“清さ”を表す単語が多く、「川」一般の綺麗な流れをイメージしている。(図3-14)

海草郡の「山」のイメージは、“光”を表す単語が多く、「山」が日に映えるイメージがあるといえる(図3-15)。

海草郡の「海」のイメージは、“波”と“光”を表す単語が比較的多く、波に光が映えるイメージが出ているといえる(図3-16)。

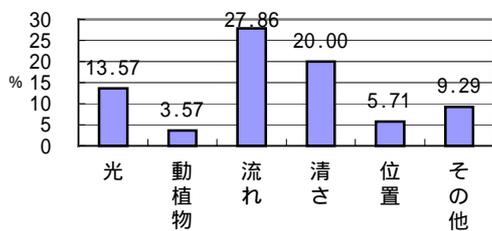


図3-14海草郡「川」環境要素イメージ

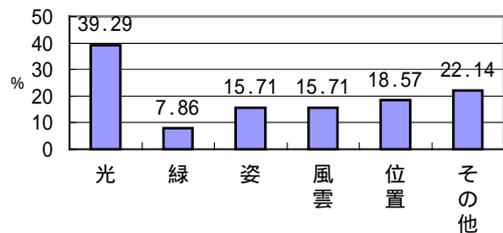


図3-15海草郡「山」環境要素イメージ

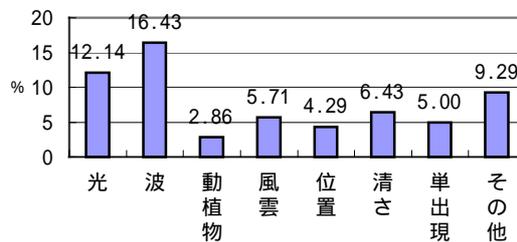


図3-16海草郡「海」環境要素イメージ

(2) 那賀郡のイメージ分析

那賀郡の「川」のイメージは、“流れ”と“光”と“清さ”を表す単語が多く、「川」の綺麗な流れに光が映えるイメージが出ているといえる(図3-17)。

那賀郡の「山」のイメージは、“光”と“位置”と“姿”を表す単語が多く、光に映える「山」の姿が、周囲に位置しているイメージが出ているといえる(図3-18)。

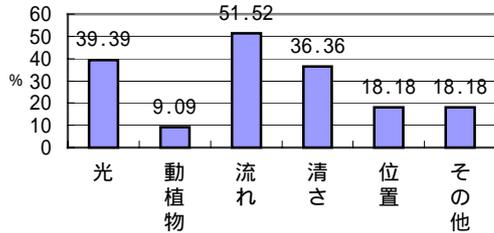


図3-17那賀郡「川」環境要素イメージ

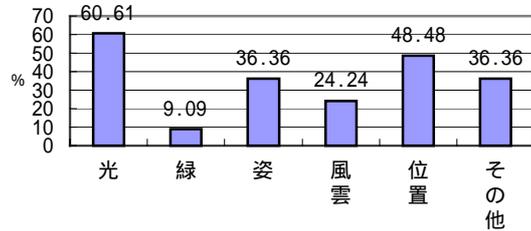


図3-18那賀郡「山」環境要素イメージ

(3)伊都郡のイメージ分析

伊都郡の「川」のイメージは、“流れ”と“光”と“清さ”を表す単語が多く、「川」の綺麗な流れに光が映えるイメージが出ているといえる(図3-19)。

伊都郡の「山」のイメージは、“位置”と“光”と“姿”と“風雲”を表す単語が多く、周囲に位置している「山」の光に映える姿に雲がかかっているイメージが出ているといえる(図3-20)。



図3-19伊都郡「川」環境要素イメージ

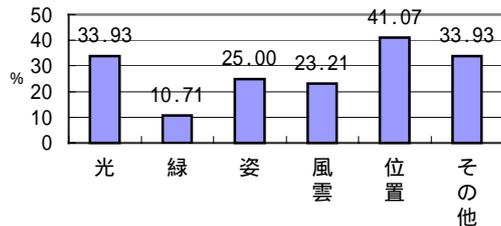


図3-20伊都郡「山」環境要素イメージ

(4)有田郡のイメージ分析

有田郡の「川」のイメージは、“清さ”と“流れ”を表す単語が比較的多く、「川」の綺麗な流れをイメージしている(図3-21)。

有田郡の「山」のイメージは、“光”と“風雲”を表す単語が多く、光に映える山に雲がかかっているイメージが出ているといえる(図3-22)。

有田郡の「海」のイメージは、“波”を表す単語が比較的多く、波の姿がイメージとして出ているといえる(図3-23)。

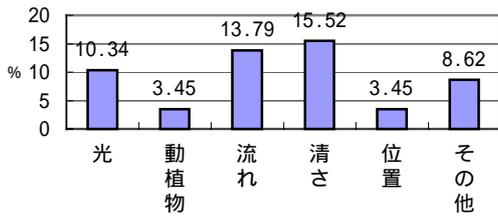


図3-21有田郡「川」環境要素イメージ

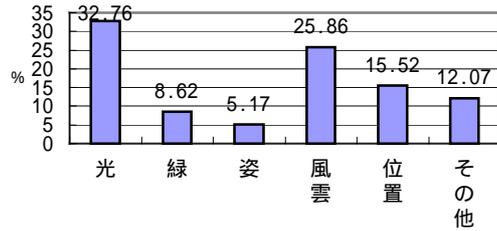


図3-22有田郡「山」環境要素イメージ

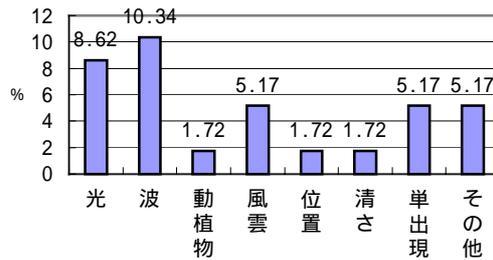


図3-23有田郡「海」環境要素イメージ

(5)日高郡のイメージ分析

日高郡の「川」のイメージは、“清さ”と“流れ”を表す単語が多く、綺麗な流れをイメージしているといえる(図3-24)。

日高郡の「山」のイメージは、“光”と“風雲”を表す単語が多く、光に映える山に雲がかかっているイメージが出ているといえる(図3-25)。

日高郡の「海」のイメージは、“波”を表す単語が多く、波の姿がイメージとして出ているといえる(図3-26)。

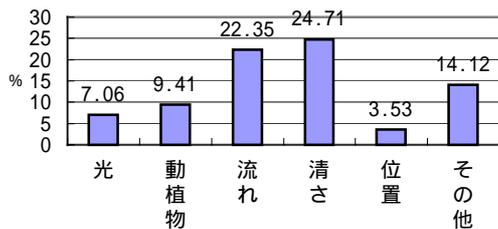


図3-24日高郡「川」環境要素イメージ

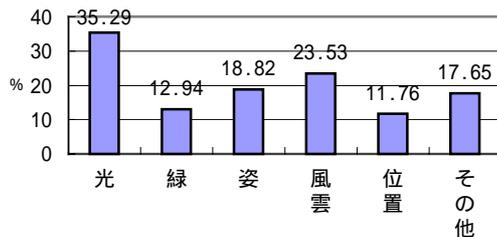


図3-25日高郡「山」環境要素イメージ

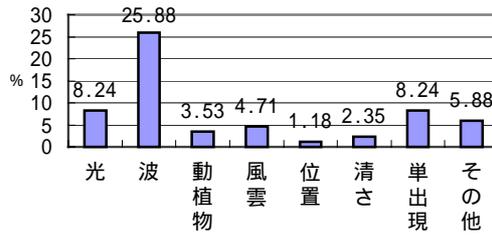


図3-26日高郡「海」環境要素イメージ

(6)西牟婁郡のイメージ分析

西牟婁郡の「川」のイメージは、“清さ”を表す単語が多く、綺麗な川をイメージしているといえる(図3-27)。

西牟婁郡の「山」のイメージは、“光”と“位置”と“姿”を表す単語が多く、光に映え、周囲に位置している「山」の姿をイメージしているといえる(図3-28)。

西牟婁郡の「海」のイメージは、“波”を表す単語が多く、波の姿をイメージしているといえる(図3-29)。

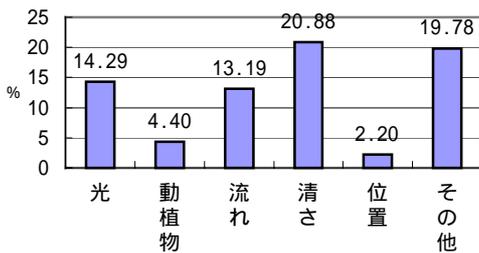


図3-27西牟婁郡「川」環境要素イメージ

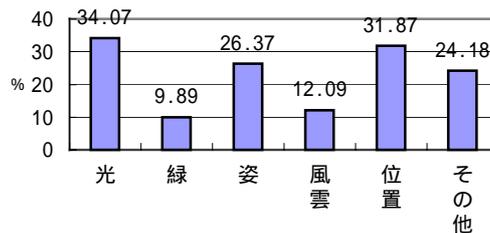


図3-28西牟婁郡「山」環境要素イメージ

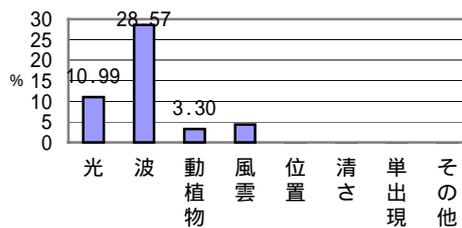


図3-29西牟婁郡「海」環境要素イメージ

(7)東牟婁郡のイメージ分析

東牟婁郡の「川」のイメージは、“清さ”と“流れ”を表す単語が比較的多く、綺麗な流れをイメージしているといえる(図3-30)。

東牟婁郡の「山」のイメージは、“位置”と“姿”と“光”を表す単語が比較的多く、周囲に位置する山の姿が光に映えるイメージが出ているといえる(図3-31)。

東牟婁郡の「海」のイメージは、“波”が多く、波の姿をイメージしているといえ

る(図 3-32)。

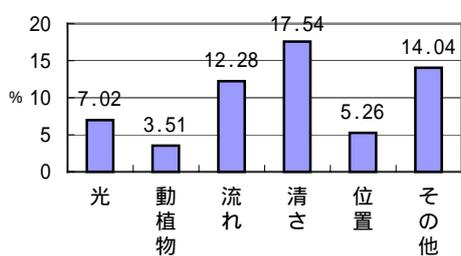


図3-30東牟婁郡「川」環境要素イメージ

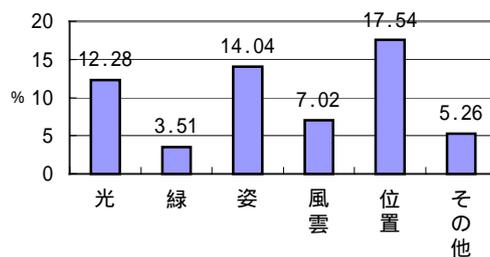


図3-31東牟婁郡「山」環境要素イメージ

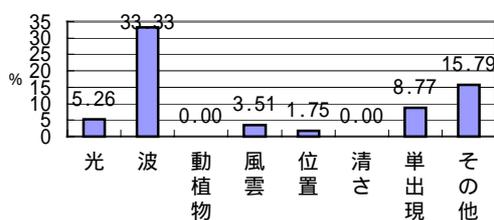


図3-32東牟婁郡「海」環境要素イメージ

3-3 市町村別イメージ分析

3-3-1 環境イメージ要素頻度分析

(1)和歌山市，海南市，下津町，野上町，美里町

和歌山市の頻出要素は、「紀ノ川」(46)、「和歌山城」(19)、「黒潮」(12)、「葛城山」(9)、「名草山」(6)、「西浜」(5)、「大日山」(4)、「紀伊山脈」(4)の順になっており、「紀ノ川」が突出していることから、和歌山市の環境イメージは、「紀ノ川」が認識されているといえる(図 3-33)。

海南市の頻出要素は、「藤白山」(35)、「貴志川」(12)、「黒沢山」(12)、「名高の浦」(12)の順に多くなっており、「藤白山」が海南市の環境イメージとして認識されているといえる(図 3-34)。

下津町の頻出要素は、「加茂川」(45)、「長峰山」(27)が他の要素より多く出ており、下津町の環境イメージとして、「加茂川」と「長峰山」が出ていると考えることができる(図 3-35)。

野上町で出ている要素は、「生石山」(100)、「野上川」(80)、「雨山」(20)だけであり、「生石山」と「野上川」が野上町の環境イメージとしてあると考えることができるだろう(図 3-36)。

美里町に出てくる要素は、「長峰山」(43)、「貴志川」(29)、「神野川」(29)だけであり、美里町の環境イメージが、「長峰山」、「貴志川」、「神野川」であるといえる(図 3-37)。

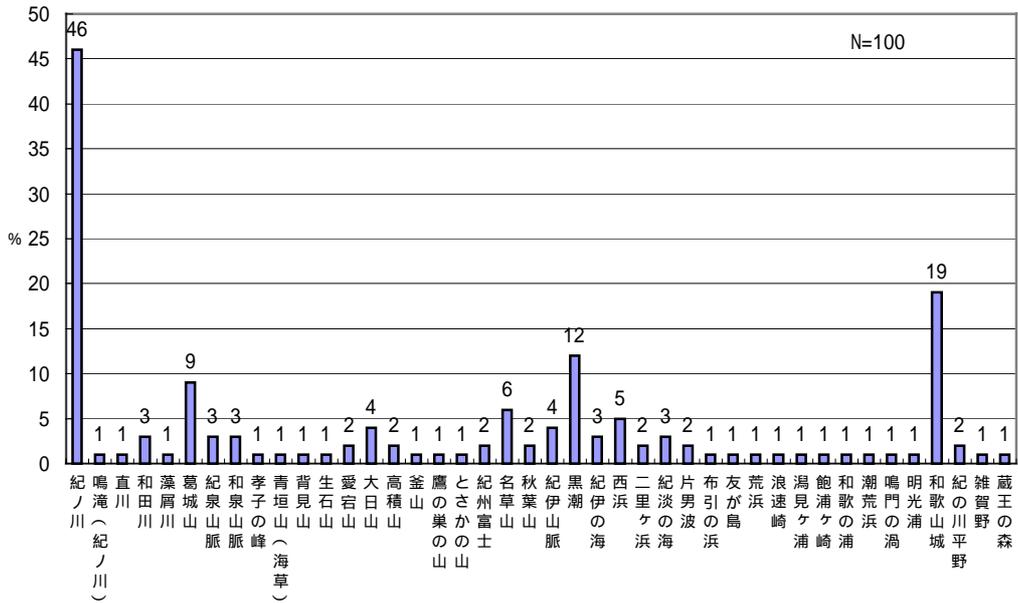


図3-33 和歌山市要素頻度

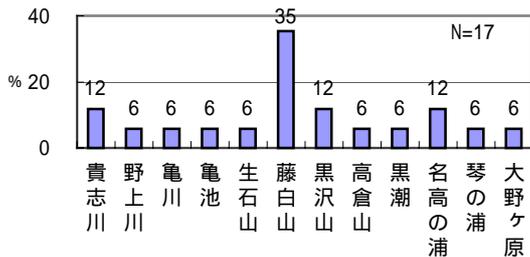


図3-34 海南市要素頻度

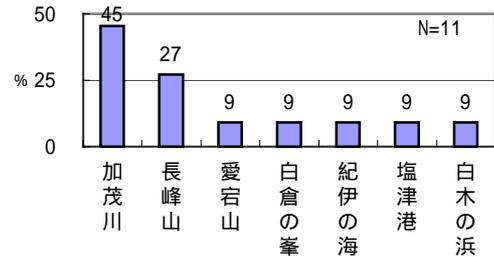


図3-35 下津町要素頻度

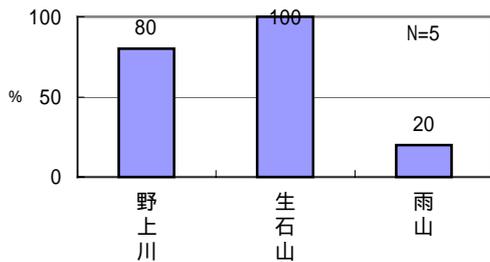


図3-36 野上町要素頻度

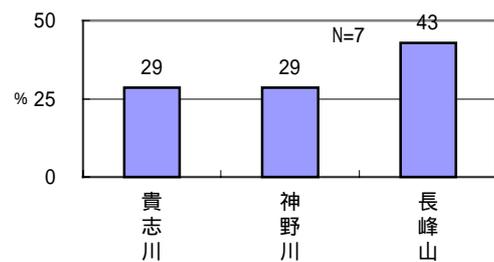


図3-37 美里町要素頻度

(2) 岩出町，打田町，貴志川町，粉河町，那賀町，桃山町

岩出町の頻出要素は、「紀ノ川」(88)、「紀州富士」(63)が他の要素より多く出ていることから、「紀ノ川」「紀州富士」が岩出町の環境イメージであるといえる(図3-38)。

打田町の環境要素は、「紀ノ川」(67)、「葛城山」(67)のみ出てくるため、打田町の環境イメージが、「紀ノ川」「葛城山」であると考えられる(図3-39)。

貴志川町の環境要素で最も多いのが、「貴志川」(67)で、次いで「紀州富士」(50)、「鳩羽山」(33)、「愛宕山」(17)の順になっており、町名にもなっている「貴志川」

と町の周りの山が、貴志川町の環境イメージとして出ていると考えることができる(図3-40)。

粉河町の頻出要素は、「紀ノ川」(50),「紀州富士」(50),「葛城山」(38)であり、粉河町は、町域を貫流している「紀ノ川」と町域の南北の主峰「紀州富士」と「葛城山」を環境イメージとして有していると考え得る(図3-41)。

那賀町の環境要素は、「紀ノ川」(100),「葛城山」(67),「飯盛山」(67)だけがあり、「紀ノ川」,「葛城山」,「飯盛山」が那賀町の環境イメージとなっていると考えることができる(図3-42)。

桃山町の環境要素は、「紀州富士」(60),「紀ノ川」(40),「貴志川」(20),「柘榴川」(20)が出ており、桃山町は、「紀州富士」,「紀ノ川」とその支流「貴志川」および「柘榴川」が環境イメージとして認識されている(図3-43)。

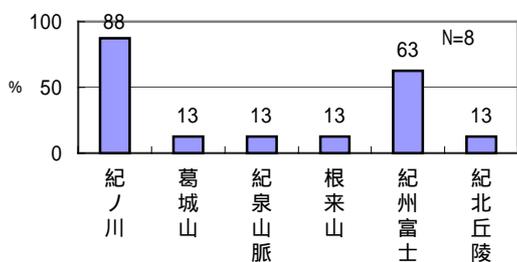


図3-38 岩出町要素頻度

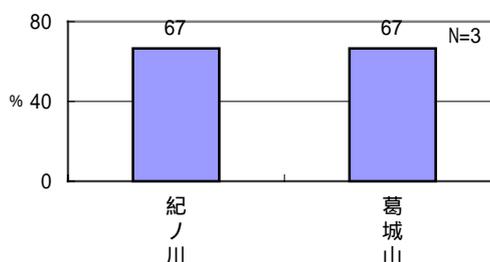


図3-39 打田町要素頻度

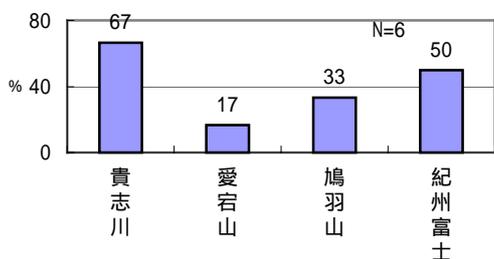


図3-40 貴志川町要素頻度

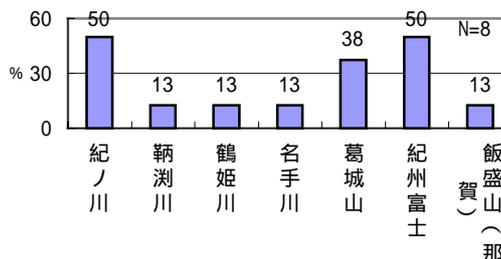


図3-41 粉河町要素頻度

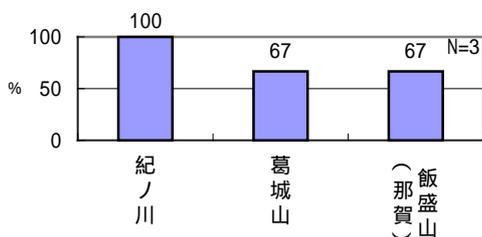


図3-42 那賀町要素頻度

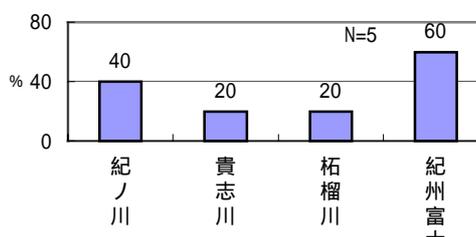


図3-43 桃山町要素頻度

(3) 橋本市, かつらぎ町, 九度山町, 高野口町, 高野町, 花園村

橋本市の環境要素は、多い順に、「紀ノ川」(50),「高野山」(35),「葛城山」(20),「国城山」(20)の様になっていることから、橋本市の環境イメージとしては、「紀ノ川」,「高野山」,「葛城山」,「国城山」を認識していることがあげられる(図3-44)。

かつらぎ町の環境要素は、「紀ノ川」(60),「葛城山」(33),「高野山」(13),「大日山」(13)の順に多くっており、かつらぎ町の環境イメージとして、「紀ノ川」,「葛城山」,「高野山」,「大日山」が認識されているということができらる(図3-45)。

九度山町の環境要素は、「丹生川」(67),「紀ノ川」(17),「古沢川」(17),「高野山」(17),「雨引山」(17),「大槌山」(17)があり、九度山町の環境イメージとして、「丹生川」,「紀ノ川」,「古沢川」,「高野山」,「雨引山」が認識されているということができ(図3-46)。

高野口町の環境要素は、「葛城山」(80),「紀ノ川」(60),「高野山」(40),「木食応其」(20),「宇和田池」(20)があり、高野口町は、環境イメージとして、「葛城山」,「紀ノ川」,「高野山」,「木食応其」,「宇和田池」を有しているということができ(図3-47)。

高野町の環境要素は、「高野山」(50)が最も多く、他の8つの要素は、出現数が13であることから、高野町は、「高野山」が環境イメージとして認識されていると考えることができる(図3-48)。

花園村の環境要素は、「有田川」(50),「高野山」(50),「護摩壇山」(50)が出現しており、村内を流れる「有田川」と南北に位置する「高野山」,「護摩壇山」が花園村の環境イメージとして認識されているということができ(図3-49)。

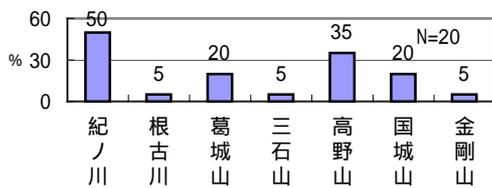


図3-44 橋本市要素頻度

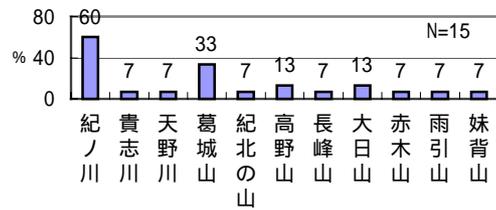


図3-45 かつらぎ町要素頻度

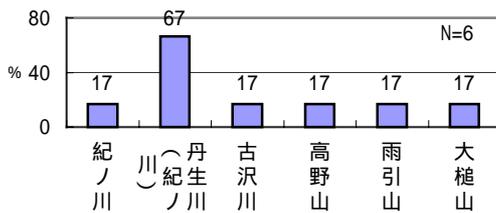


図3-46 九度山町要素頻度

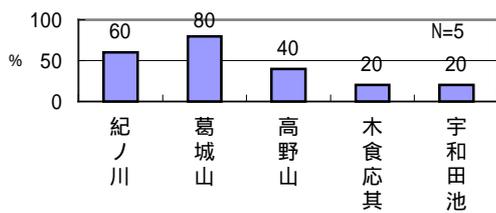


図3-47 高野口町要素頻度

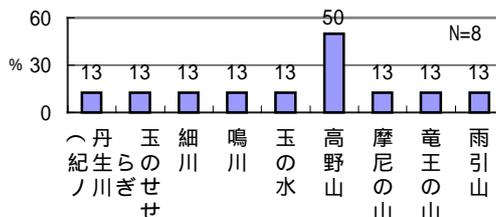


図3-48 高野町要素頻度

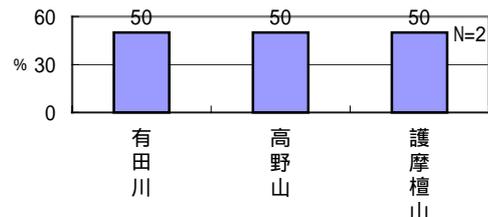


図3-49 花園村要素頻度

(4)有田市，金屋町，吉備町，清水町，広川町，湯浅町

有田市の環境要素は、「楚都浜」(29)、「有田川」(21)、「明神山」(14)、「田鶴の浜」(14)の順に出現しており、有田市の環境イメージは、「楚都浜」，「有田川」，「明神山」，「田鶴の浜」が認識されているといえる(図3-50)。

金屋町の頻出要素は「有田川」(31)、「生石山」(31)が出ており、金屋町の環境イメージは、「有田川」，「生石山」が認識されているといえる(図3-51)。

吉備町の環境要素は、「有田川」(80)、「生石山」(20)、「長峰山」(20)、「愛宕山」(20)があり、吉備町の環境イメージは、「有田川」と周囲の山からなっているといえる(図3-52)。

清水町の環境要素は、「有田川」(55)、「白馬山」(27)が多く、清水町の環境イメージは、「有田川」と南部にある「白馬山」が認識されているといえる(図3-53)。

広川町の環境要素は、「白馬山」(25)のみであることから、環境イメージは「白馬山」が認識されているといえるだろう(図3-54)。

湯浅町の環境要素は、「生石山」(29)、「山田川」，「広川」，「地蔵峰」，「高城山」，「黒潮」，「湯浅湾」(各14)であることから、環境イメージが分散しているが、町内を流れている川と町域を囲んでいる周囲の山が湯浅町の環境イメージであるといえる(図3-55)。

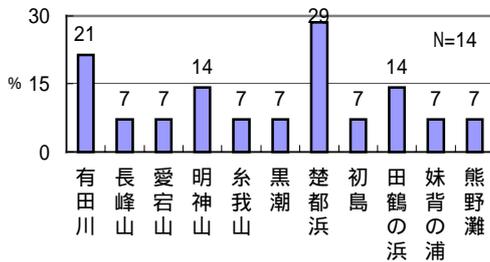


図3-50 有田市要素頻度

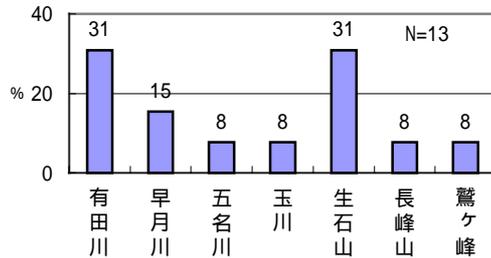


図3-51 金屋町要素頻度

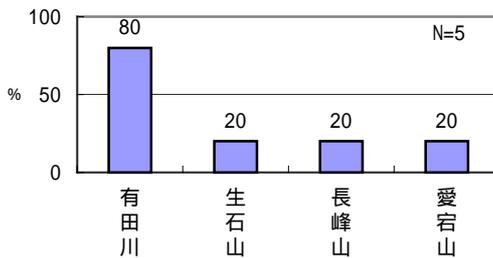


図3-52 吉備町要素頻度

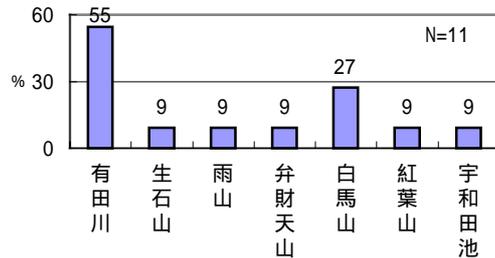


図3-53 清水町要素頻度

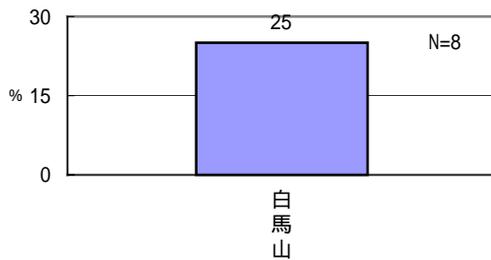


図3-54 広川町要素頻度

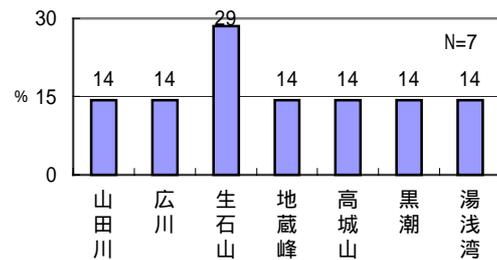


図3-55 湯浅町要素頻度

(5)御坊市，印南町，川辺町，中津村，日高町，南部川村，南部町，美浜町，美山村，由良町，龍神村

御坊市の環境要素は、「日高川」(50)、「白馬山」(25)、「黒潮」(25)が多くなっており、環境イメージは、市の中心を流れる「日高川」と「白馬山」、「黒潮」が認識されていると考えることができる(図3-56)。

印南町の環境要素は、「黒潮」(23)、「切目川」(15)の順になっており、環境イメージは、「黒潮」、「切目川」が認識されていると考えることができる(図3-57)。

川辺町の環境要素は、「日高川」(67)、「白馬山」(22)、「真妻山」(22)の順に多くなっており、川辺町の環境イメージは、「日高川」、「白馬山」、「真妻山」が認識されているということがいえる(図3-58)。

中津村の環境要素は、「日高川」(86)、「飯盛山」(43)、「矢筈山」(29)の順に多くなっていることから、中津村の環境イメージとしては、「日高川」、「飯盛山」、「矢筈山」が認識されていると考えられる(図3-59)。

日高町の環境要素は、「白馬山」，「西山」，「秋葉山」，「紀伊の海」，「日高平野」(各25)が出ており、日高町は、「白馬山」，「西山」，「秋葉山」，「紀州灘」，「日高平野」を環境イメージとして認識しているといえる(図3-60)。

南部川村の環境要素は、「南部川」(33)、「高幡山」(33)、「秋葉山」(17)、「須賀の峰」(17)がでており、環境イメージとして、南部川村は、村名の由来でもある「南部川」や、村の周囲の山を認識していると考えられる(図3-61)。

南部町の環境要素は、「黒潮」(50)、「千里浜」，「井比の浜」，「熊野灘」(各25)が出現しており、南部町の環境イメージは、上記の「海」が認識されているといえる(図3-62)。

美浜町の環境要素は、「西山」，「黒潮」，「煙樹ヶ浜」(各40)、「太平洋」(20)が出ており、美浜町は環境イメージとして、「海」とそれを望む「西山」を認識していると考えられる(図3-63)。

美山村の環境要素は、「日高川」，「丸山」(各33)、「矢筈山」，「秋葉山」(各17)が出てきており、村域を流れる「日高川」と周囲の山を環境イメージとして有していると考えられる(図3-64)。

由良町の環境要素は、多い順に、「黒潮」(57)、「重山」(43)、「八幡山」，「黒島」，

「衣奈の浦」(各 29)というように出現しており、由良町は、環境イメージとして、「海」と、それを望む「山」を認識しているといえる(図 3-65)。

龍神村の環境要素は、「日高川」(50),「護摩壇山」(25),「丹生川」(17)の順で、出てきており、村域を流れる「日高川水系」と北部にある「護摩壇山」が環境イメージとして認識されているといえる(図 3-66)。

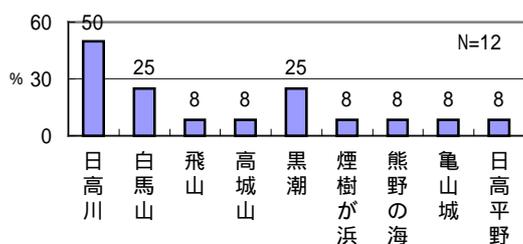


図3-56 御坊市要素頻度

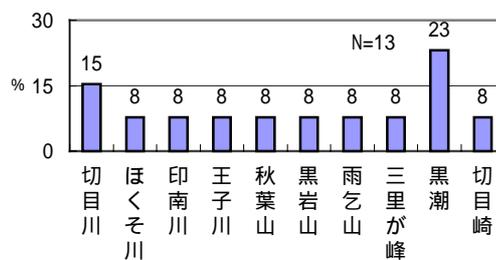


図3-57 印南町要素頻度

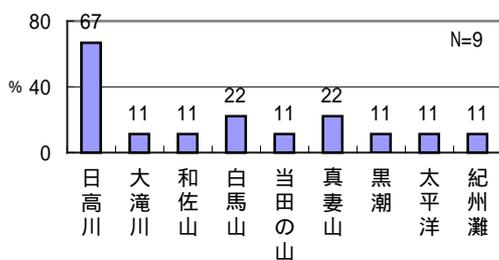


図3-58 川辺町要素頻度

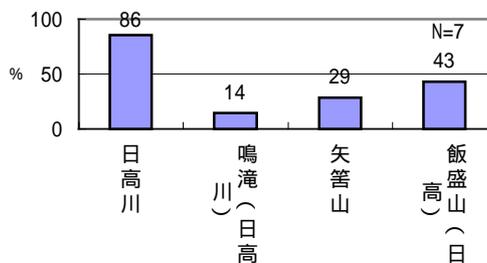


図3-59 中津村要素頻度

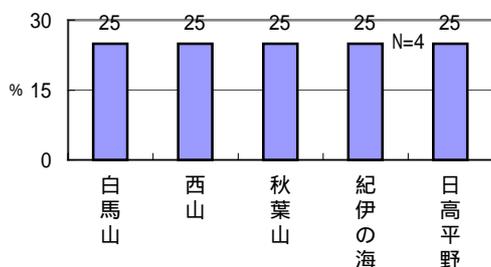


図3-60 日高町要素頻度

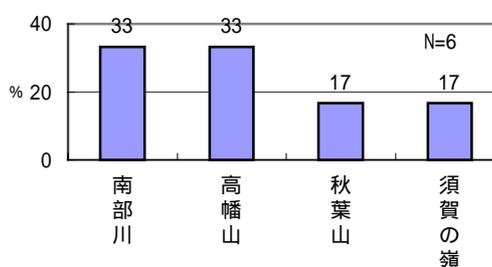


図3-61 南部川村頻度

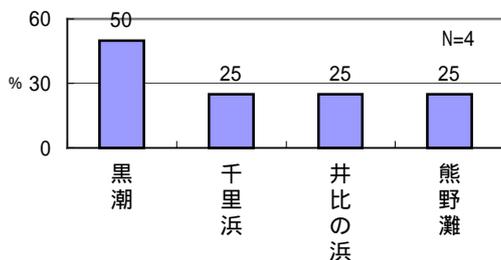


図3-62 南部町要素頻度

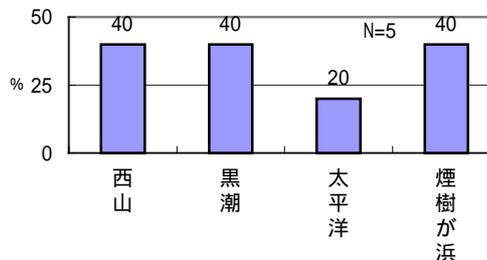


図3-63 美浜町要素頻度

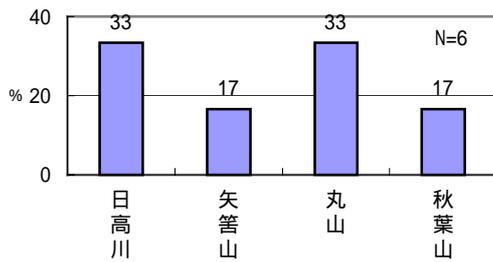


図3-64 美山村要素頻度

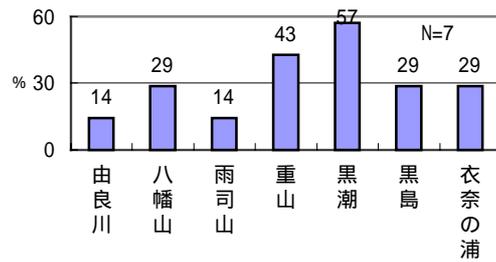


図3-65 由良町要素頻度

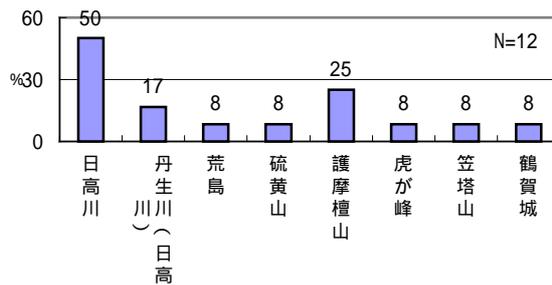


図3-66 龍神村要素頻度

(6)田辺市，大塔村，上富田町，串本町，白浜町，すさみ町，中辺路町，日置川町

田辺市の環境要素は、「高尾山」(42)、「黒潮」(23)、「会津川」(16)の順に出てきており、市の中央に位置する「高尾山」と、市を流れる「会津川」それに、「黒潮」が環境イメージとして認識されているといえる(図3-67)。

大塔村の環境要素は、「大塔山」(50)、その他4つの要素が(各25)出てきており、村名の由来となっている「大塔山」が環境イメージとして認識されている(図3-68)。

上富田町の環境要素は、最も多いものが、「富田川」(75)で、その他の要素は各(13)もしくは(25)出てきており、上富田町の環境イメージは、町内を貫流している「富田川」が認識されているといえる(図3-69)。

串本町の環境要素は、「黒潮」(32)、「枯木灘」(16)などがあり、県南端に位置している串本町の環境イメージは、「海」が認識されているといえる(図3-70)。

白浜町の環境要素は、「黒潮」(44)、「富田川」(33)のようになっており、環境イメージとして、「海」と町中央を流れる「富田川」を認識している(図3-71)。

すさみ町の環境要素は、「黒潮」(43)、「古座川」，「清水山」(各29)のようになっており、すさみ町の環境イメージとして、「海」と「古座川」，「清水山」を認識しているといえる(図3-72)。

中辺路町の環境要素は、「富田川」，「果無山」(各50)があり、環境イメージとして、この両者を認識しているといえる(図3-73)。

日置川町の環境要素は、「日置川」(89)とその他4要素が(各11)出てきていることから、環境イメージとしては、町名の由来にもなっている「日置川」を認識しているといえる(図3-74)。

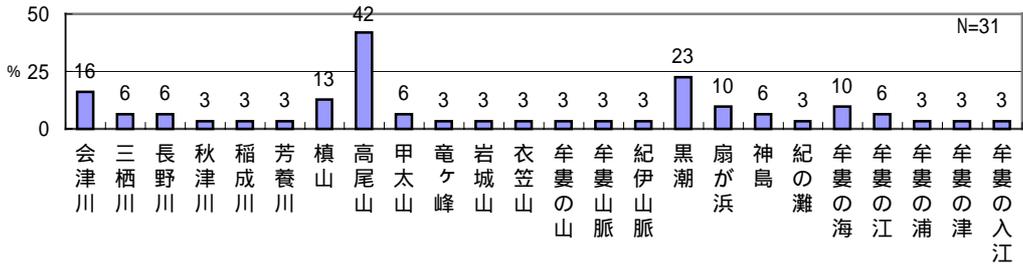


図3-67 田辺市要素頻度

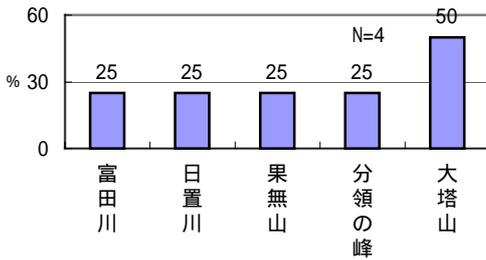


図3-68 大塔村要素頻度

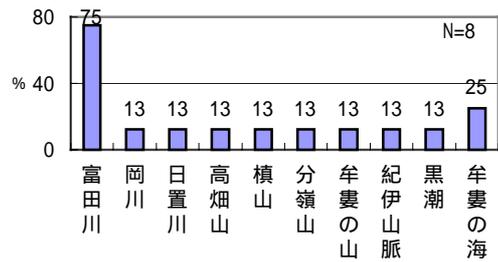


図3-69 上富田町要素頻度

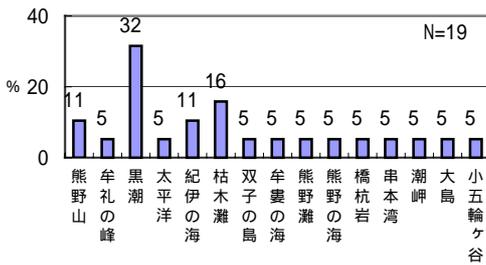


図3-70 串本町要素頻度

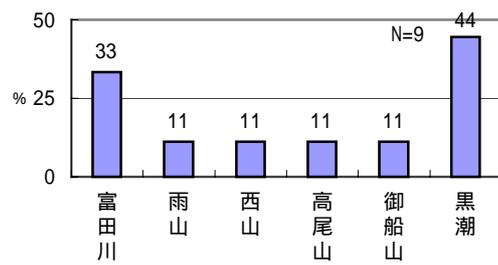


図3-71 白浜町要素頻度

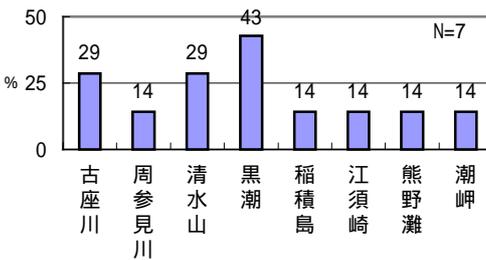


図3-72 すさみ町要素頻度

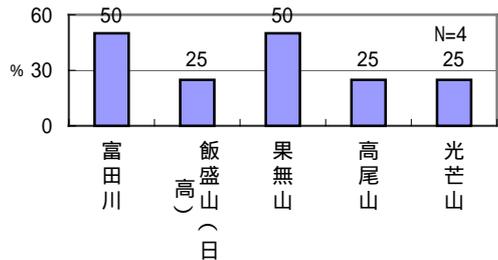


図3-73 中辺路町要素頻度

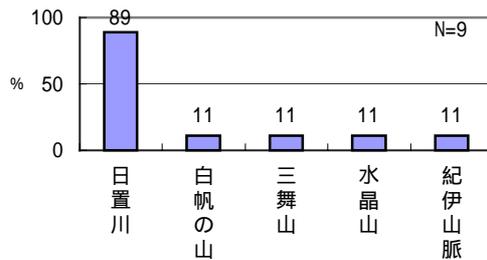


図3-74 日置川町要素頻度

(7)新宮市，北山村，熊野川町，古座川町，古座町，太地町，那智勝浦町，本宮町

新宮市の環境要素は、「熊野川」，「黒潮」，「王子が浜」(各 21)，「千穂山」，「太平洋」(各 14)が出てきており、環境イメージとしては、「海」と市境を流れる「熊野川」と、「千穂山」が認識されていると考えることができる(図 3-75)。

北山村の環境要素は、「西の峰」(50)しか出てきていないため、環境イメージは、「西の峰」であるといえるだろう(図 3-76)。

熊野川町の環境要素は、「熊野川」(150)と、その他「熊野川水系」の要素が出てきており、環境イメージは、町名の由来となった「熊野川」であるといえるだろう(図 3-77)。

古座川町の環境要素は、「古座川」(57)で、その他(各 14)であり、環境イメージは、「古座川」であるといえる(図 3-78)。

古座町の環境要素は、「黒潮」(63)，「熊野灘」(38)，「重山」(25)の順になっており、環境イメージが、「海」とそれを望む「重山」を認識していると考え得る(図 3-79)。

太地町の環境要素は、「熊野の海」(50)だけであり、熊野灘に突き出ている町のイメージを出していると考えられる(図 3-80)。

那智勝浦町の環境要素は、「黒潮」，「千尋の浜」(各 14)等が出ており、「海」と「那智山」が環境イメージとして認識されているといえる(図 3-81)。

本宮町の環境要素は、「果無山」(63)，「熊野川」(38)のようになり、この両者が環境イメージであるといえることができるだろう。

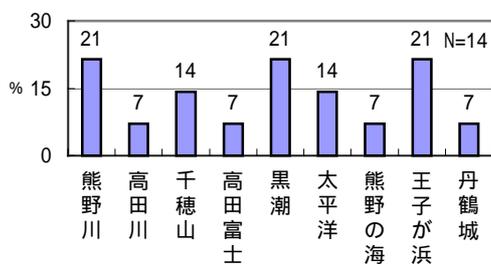


図3-75 新宮市要素頻度

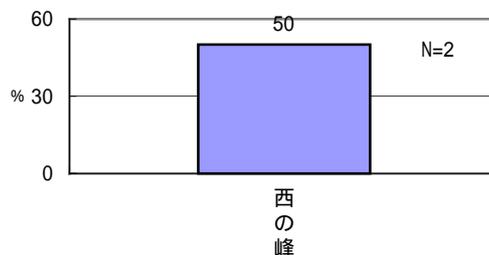


図3-76 北山村要素頻度

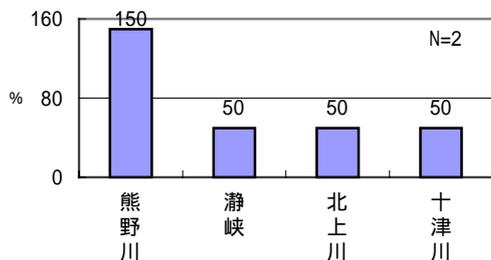


図3-77 熊野川町要素頻度

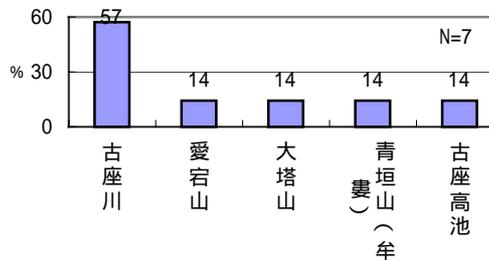


図3-78 古座川町要素頻度

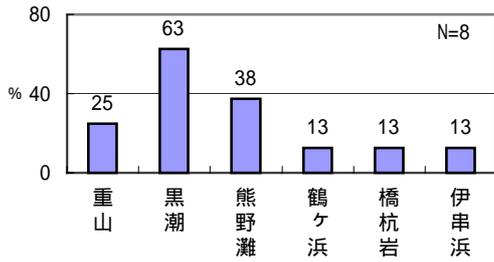


図3-79 古座町要素頻度

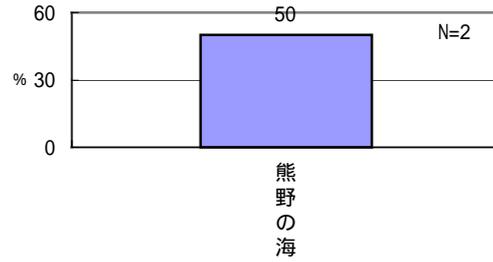


図3-80 太地町要素頻度

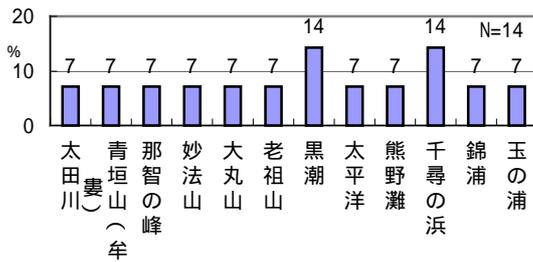


図3-81 那智勝浦町要素頻度

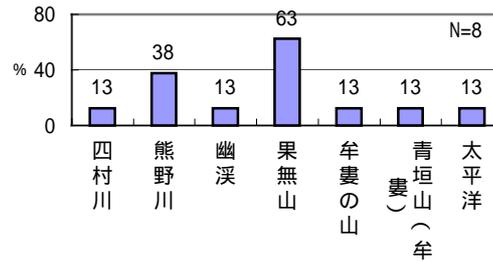


図3-82 本宮町要素頻度

3-3-2 環境要素のイメージ分析

(1)和歌山市，海南市，下津町，野上町，美里町

和歌山市は、「川」の“流れ”を表す単語が最も多く、「紀ノ川」の流れのイメージが出ているといえる(図3-83)。

海南市は、「山」の“光”を表す単語が突出して多く、光に映える「山」のイメージが出ているといえる(図3-84)。

下津町は、「山」の“光”と「海」の“光”を表す単語が最も多く、光に映える「山」と「海」のイメージが出ているといえる(図3-85)。

野上町は、「川」の“流れ”と「山」の“光”と“位置”を表す単語が最も多く、光に映える周囲の山と「紀ノ川」に流れ込む「川」のイメージが出ているといえる(図3-86)。

美里町は、「川」の“清さ”と“流れ”と「山」の“姿”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」の流れと「山」の姿が出ているといえる(図3-87)。

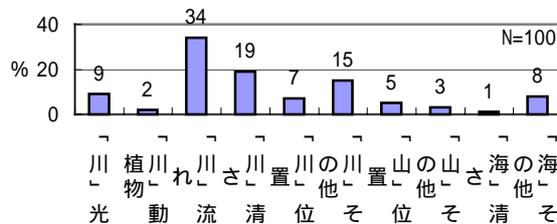


図3-83和歌山市環境イメージ

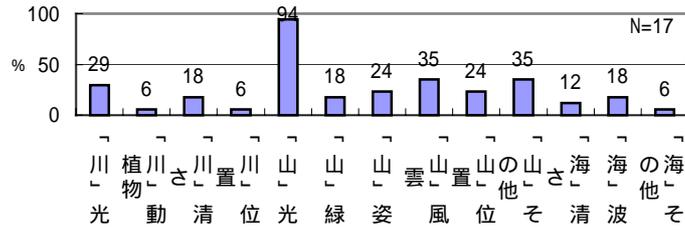


図3-84 海南市環境要素イメージ

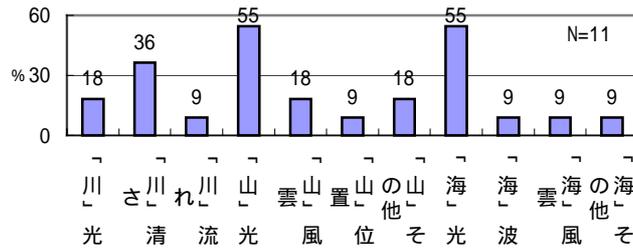


図3-85 下津町環境要素イメージ

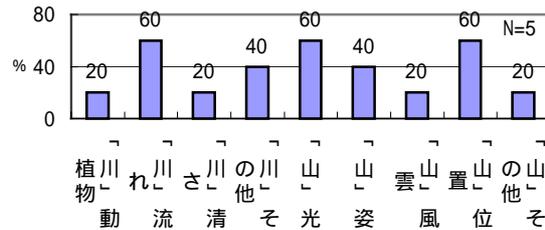


図3-86 野上町環境要素イメージ

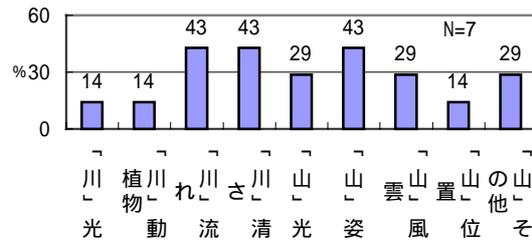


図3-87 美里町環境要素イメージ

(2) 岩出町，打田町，貴志川町，粉河町，那賀町，桃山町

岩出町は、「山」の“位置”を表す単語が最も多く、周囲の「山」をイメージしているといえる(図3-88)。

打田町も、「山」の“位置”を表す単語が最も多く、周囲の「山」をイメージしているといえる(図3-89)。

貴志川町は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光に映える「山」をイメージしているといえる(図3-90)。

粉河町は、「川」の“流れ”と“清さ”と、「山」の“姿”と“位置”を表す単語が最

も多く、綺麗な「川」の流れと周囲の「山」の姿が出ているといえる(図 3-91)。

那賀町は、「川」の“位置”を表す単語が最も多く、学校の周囲の「川」をイメージしているといえる(図 3-92)。

桃山町は、「川」の“清さ”と「山」の“光”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」と光に映える「山」をイメージしているといえる(図 3-93)。

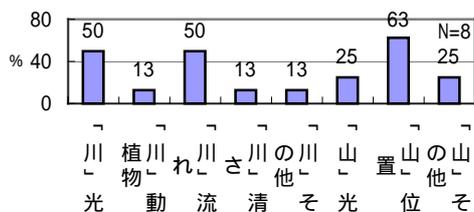


図3-88岩出町環境要素イメージ

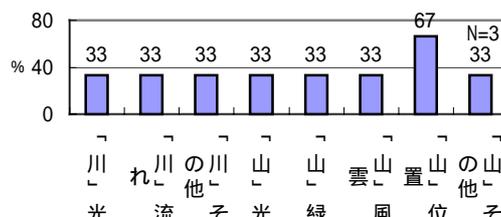


図3-89打田町環境要素イメージ

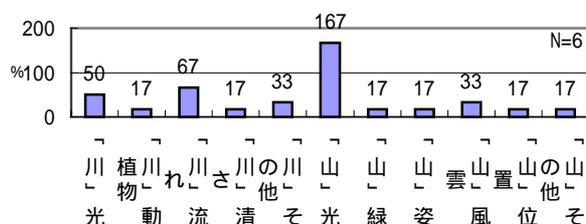


図3-90貴志川町環境要素イメージ

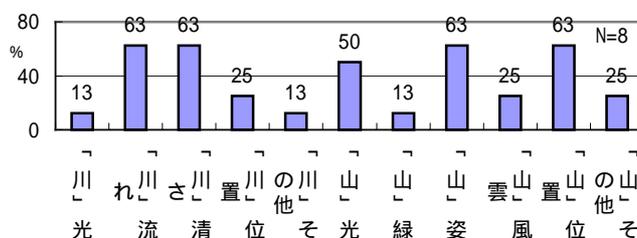


図3-91粉河町環境要素イメージ

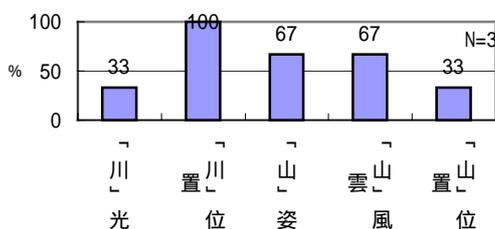


図3-92那賀町環境要素イメージ

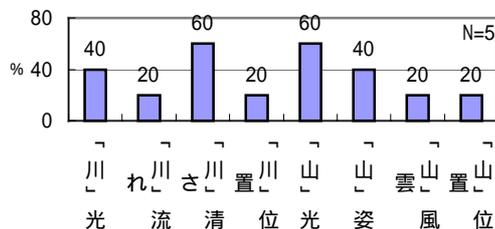


図3-93桃山町環境要素イメージ

(3)橋本市, かつらぎ町, 九度山町, 高野口町, 高野町, 花園村

橋本市は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光に映える「山」をイメージしているといえる(図 3-94)。

かつらぎ町は、「川」の“清さ”と「山」の“位置”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」と周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-95)。

九度山町は、「川」の“光”と「山」の“姿”を表す単語が最も多く、光に映える「川」と「山」の姿をイメージしているといえる(図 3-96)。

高野口町は、「山」の“風雲”と“位置”を表す単語が最も多く、雲がかかっている周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-97)。

高野町は、「山」の“風雲”を表す単語が最も多く、雲がかかった「山」をイメージしているといえる(図 3-98)。

花園村は、「山」の“位置”を表す単語が最も多く、周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-99)。

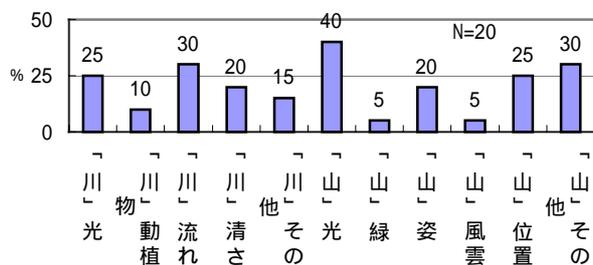


図3-94橋本市環境要素イメージ

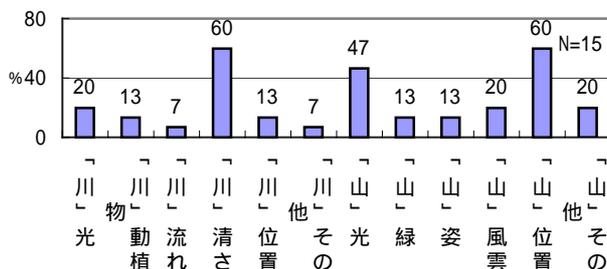


図3-95かつらぎ町環境要素イメージ

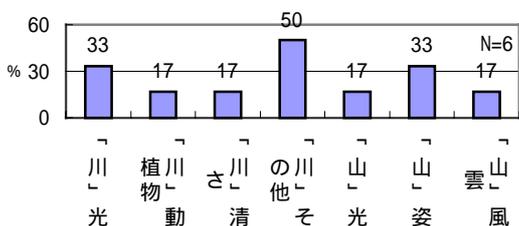


図3-96九度山町環境要素イメージ

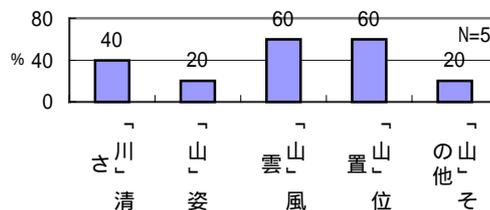


図3-97高野口町環境要素イメージ

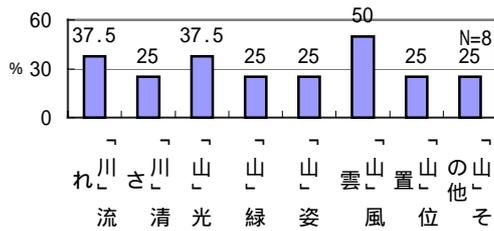


図3-98高野町環境要素イメージ

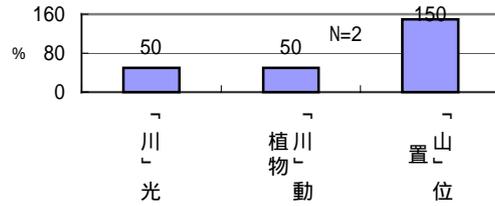


図3-99花園村環境要素イメージ

(4)有田市，金屋町，吉備町，清水町，広川町，湯浅町

有田市は、「川」の“光”と「海」の“光”と“波”を表す単語が最も多く、光に映える「川」と光に映える波をイメージしているといえる(図 3-100)。

金屋町は、「山」の“光”と“風雲”を表す単語が最も多く、光に映え、雲のかかった「山」をイメージしているといえる(図 3-101)。

吉備町は、「川」の“流れ”を表す単語が最も多く、「川」そのものをイメージしているといえる(図 3-102)。

清水町は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光に映える「山」をイメージしているといえる(図 3-103)。

広川町は、「山」の“光”，“姿”，“風雲”と“位置”を表す単語が同じ様に出ており、「山」をイメージしているといえる(図 3-104)。

湯浅町は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光に映える山をイメージしているといえる(図 3-105)。

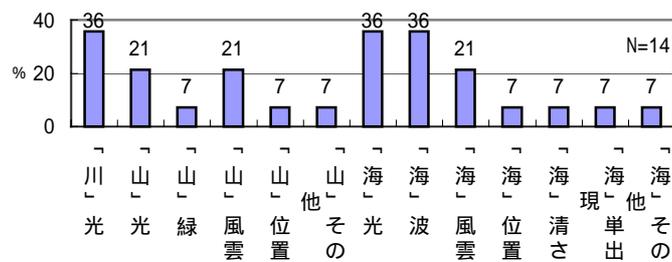


図3-100有田市環境要素イメージ

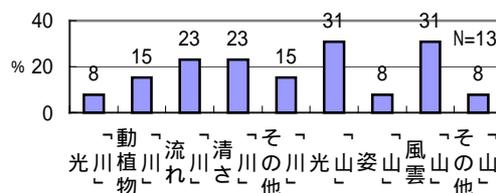


図3-101金屋町環境要素イメージ

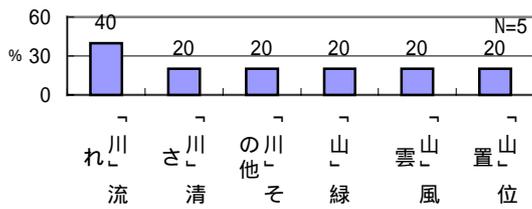


図3-102吉備町環境要素イメージ

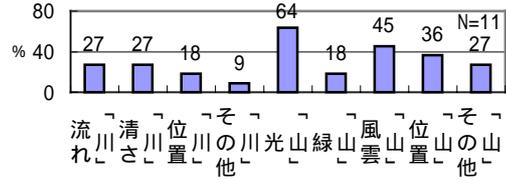


図3-103清水町環境要素イメージ

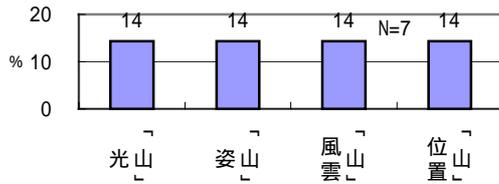


図3-104広川環境要素イメージ

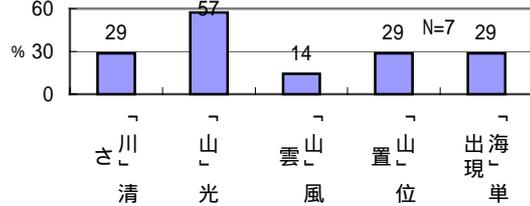


図3-105湯浅町環境要素イメージ

(5)御坊市，印南町，川辺町，中津村，日高町，南部川村，南部町，美浜町，美山村，由良町，龍神村

御坊市は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、次いで、“風雲”を表す単語が最も多いため、光に映え、雲がかかっている「山」をイメージしているといえる(図3-106)。

印南町は、「川」の“動植物”と“清さ”と「海」の“波”を表す単語が最も多く、動植物が居る、綺麗な「川」と波をイメージしているといえる(図3-107)。

川辺町は、「川」の“流れ”を表す単語が最も多く、「川」そのものをイメージしているといえる(図3-108)。

中津村は、「川」の“清さ”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」をイメージしているといえる(図3-109)。

日高町は、「山」の“光”と“風雲”と「海」の“波”，“風雲”と“位置”を表す単語が、同じだけ出てきており、光に映え、雲がかかっている「山」と潮風が吹き、波の打ち寄せる「海」の位置をイメージしているといえる(図3-110)。

南部川村は、「川」の“清さ”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」をイメージしているといえる(図3-111)。

南部町は、「海」の“波”を表す単語が最も多く、浜に打ち寄せる波をイメージしているといえる(図3-112)。

美浜町は、「山」の“光”と「海」の“波”と“風”を表す単語が最も多く、光に映える「山」と風吹き、波打ち寄せる「海」をイメージしているといえる(図3-113)。

美山村は、「山」の“風雲”を表す単語が最も多く、雲がかかっている「山」をイメージしているといえる(図3-114)。

由良町は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光が映える「山」をイメージしているといえる(図3-115)。

龍神村は、「川」の“光”と“清さ”を表す単語が最も多く、光が映える、綺麗な「川」

をイメージしているといえる(図 3-116)。

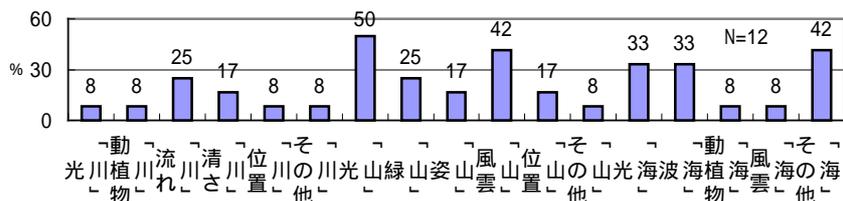


図3-106御坊市環境要素イメージ

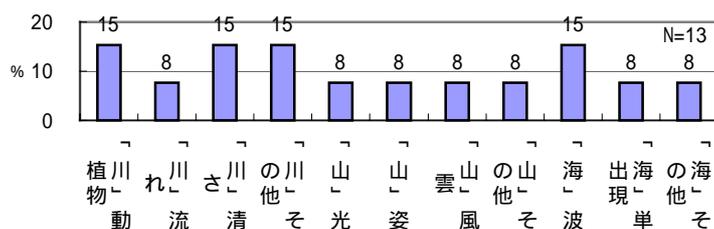


図3-107印南町環境要素イメージ

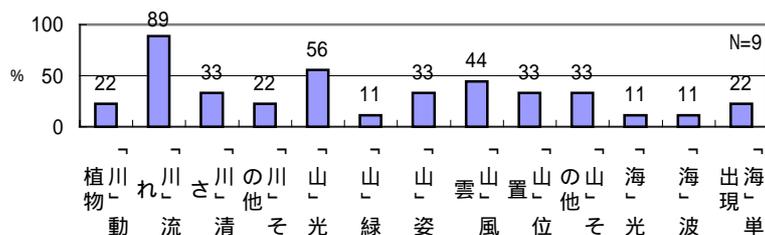


図3-108川辺町環境要素イメージ

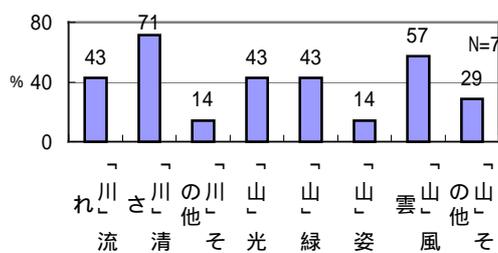


図3-109中津村環境要素イメージ

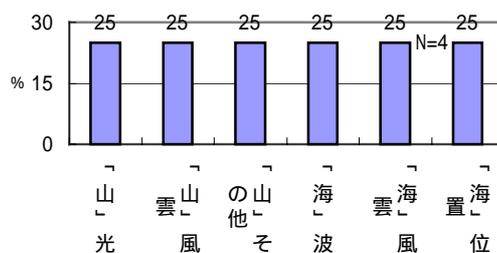


図3-110日高町環境要素イメージ

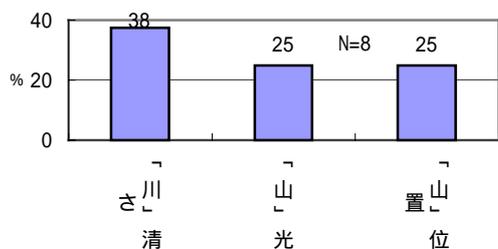


図3-111南部川村環境要素イメージ

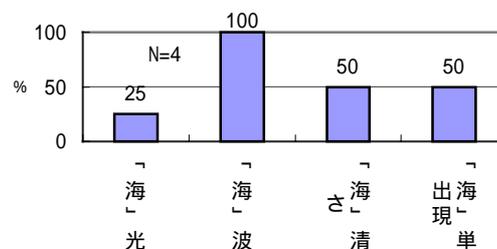


図3-112南部町環境要素イメージ

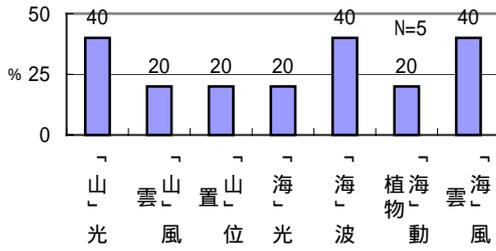


図3-113美浜町環境要素イメージ

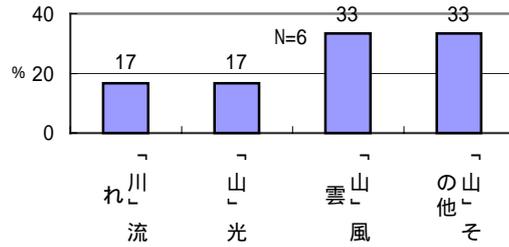


図3-114美山村環境要素イメージ

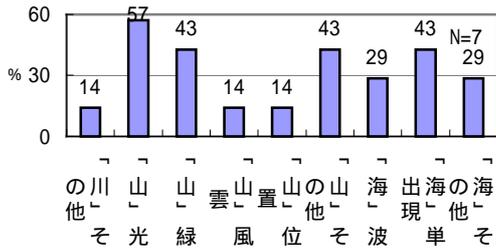


図3-115由良町環境要素イメージ

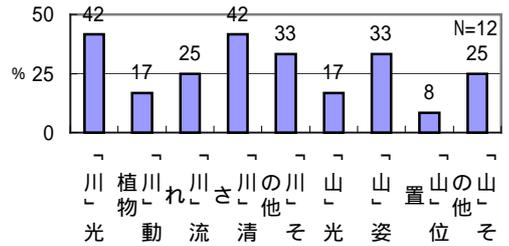


図3-116龍神村環境要素イメージ

(6)田辺市，大塔村，上富田町，串本町，白浜町，すさみ町，中辺路町，日置川町
 田辺市は、「山」の「光」と「位置」を表す単語が最も多く、光が映える周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-117)。

大塔村は、「山」の「光」を表す単語が最も多く、光が映える「山」をイメージしているといえる(図 3-118)。

上富田町は、「山」の「位置」を表す単語が最も多く、周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-119)。

串本町は、「海」の「波」を表す単語が最も多く、打ち寄せる波をイメージしているといえる(図 3-120)。

白浜町は、「海」の「波」を表す単語が最も多く、打ち寄せる波をイメージしているといえる(図 3-121)。

すさみ町は、「海」の「波」を表す単語が最も多く、打ち寄せる波をイメージしているといえる(図 3-122)。

中辺路町は、「山」の「光」を表す単語が最も多く、光に映える「山」をイメージしているといえる(図 3-123)。

日置川町は、「川」の「光」と「山」の「姿」を表す単語が最も多く、光に映える「川」と「山」の姿をイメージしているといえる(図 3-124)。

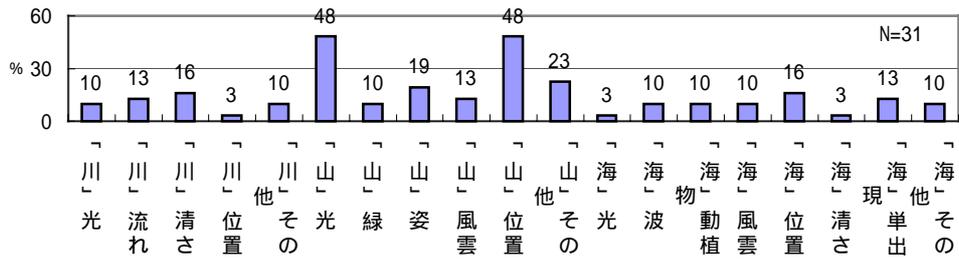


図3-117田辺市環境要素イメージ

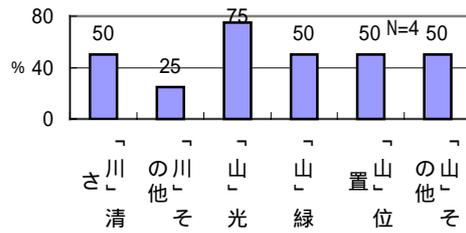


図3-118大塔村環境要素イメージ

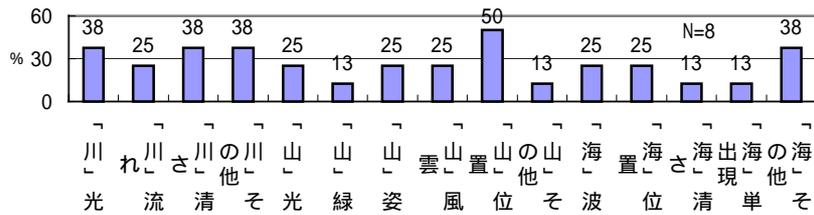


図3-119上富田町環境要素イメージ

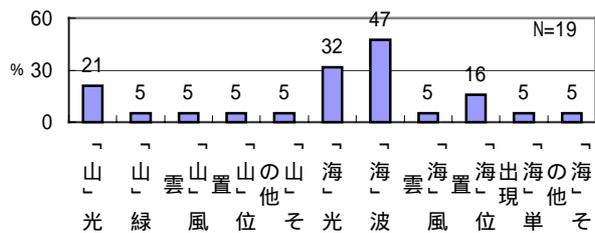


図3-120串本町環境要素イメージ

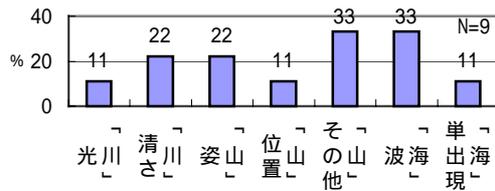


図3-121白浜町環境要素イメージ

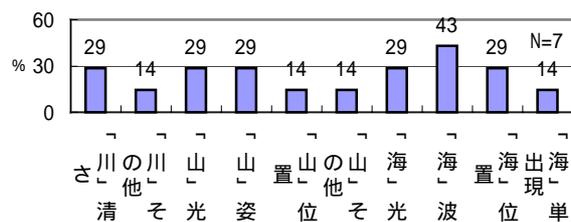


図3-122すさみ町環境要素イメージ

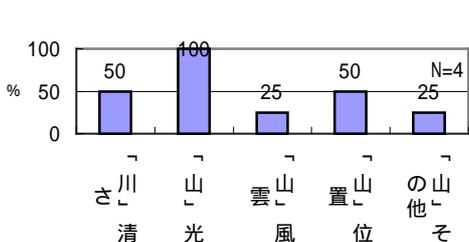


図3-123中辺路町環境要素イメージ

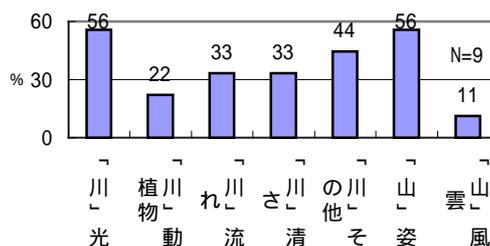


図3-124日置川町環境要素イメージ

(7)新宮市，北山村，熊野川町，古座川町，古座町，太地町，那智勝浦町，本宮町
 新宮市は、「山」の“光”を表す単語が最も多く、光が映える「山」をイメージしているといえる(図 3-125)。

北山村は、「山」の“位置”を表す単語だけが出てくるので、「山」をイメージしているといえる(図 3-126)。

熊野川町は、「川」の“光”を表す単語が最も多く、光が映える「川」をイメージしているといえる(図 3-127)。

古座川町は、「川」の“清さ”を表す単語が最も多く、綺麗な「川」をイメージしているといえる(図 3-128)。

古座町は、「海」の“波”を表す単語が最も多く、打ち寄せる波をイメージしているといえる(図 3-129)。

太地町は、「海」の“位置”を表す単語だけが出てくるので、「海」をイメージしているといえる(図 3-130)。

那智勝浦町は、「山」の“位置”を表す単語が最も多く出てきており、周囲の「山」をイメージしているといえる(図 3-131)。

本宮町は、「川」の“清さ”と“位置”と「山」の“光”を表す単語が最も多く、綺麗な周囲の「川」と光が映える「山」をイメージしているといえる(図 3-132)。

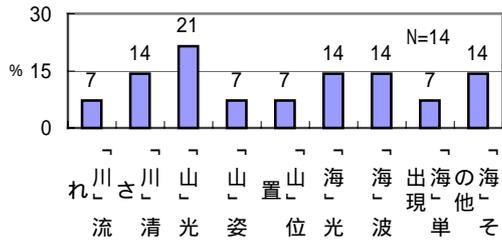


図3-125新宮市環境要素イメージ

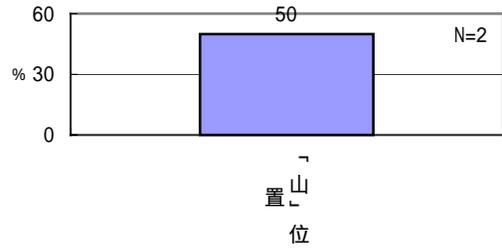


図3-126北山村環境要素イメージ

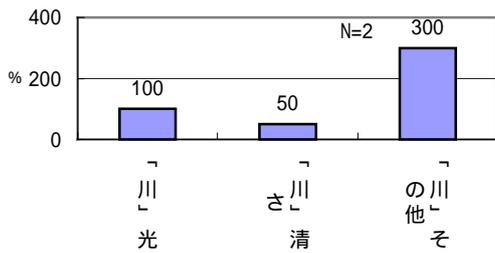


図3-127熊野川町環境要素イメージ

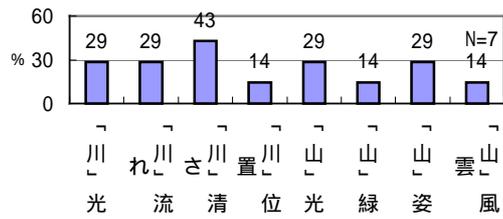


図3-128古座川町環境要素イメージ

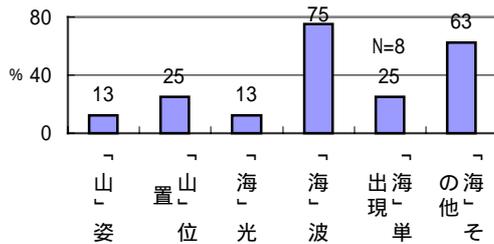


図3-129古座町環境要素イメージ

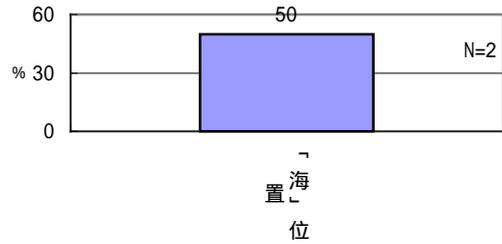


図3-130太地町環境要素イメージ

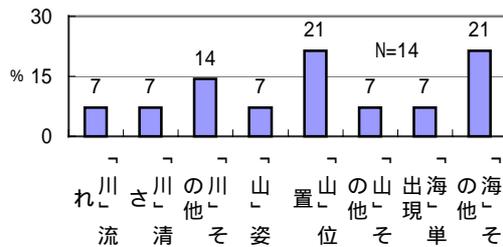


図3-131那智勝浦町環境要素イメージ

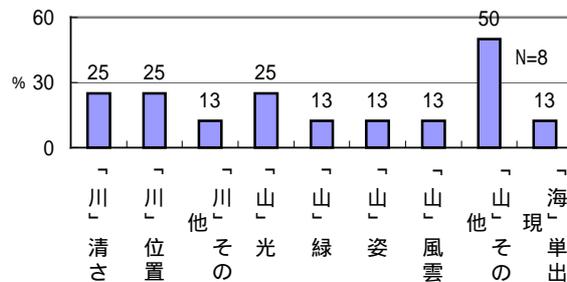


図3-132本宮町環境要素イメージ

3-4 流域別イメージ分析

3-4-1 環境イメージ要素頻度分析(図 3-133)

WAKAYAMA

和歌山県

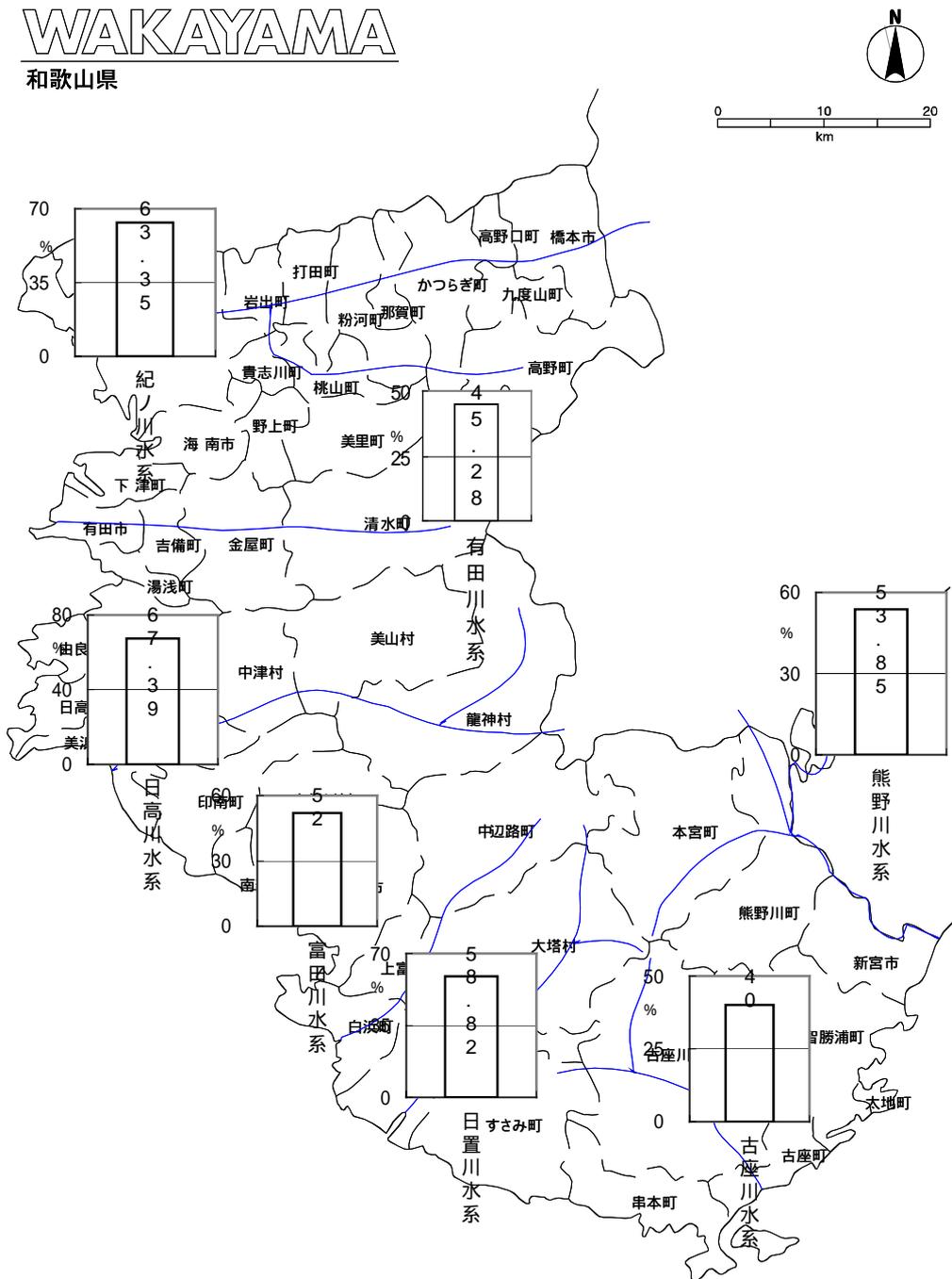


図 3-133 流域別要素頻度

流域で多いのが「日高川水系」,「紀ノ川水系」,「日置川水系」の順で、単純集計では最も多い「紀ノ川水系」が、流域の学校が圧倒的に多いため、「日高川水系」の方が比率が高くなっている。「日高川水系」は、単純集計では、「紀ノ川水系」に大きく差があったが、流域の学校の差が大きくなった。「日置川水系」においても、単純集計では数が少なかった

が、流域の学校が少なかったため、「紀ノ川水系」と5%弱の違いしか出なかった。

3-4-2 環境要素のイメージ分析(図 3-134)

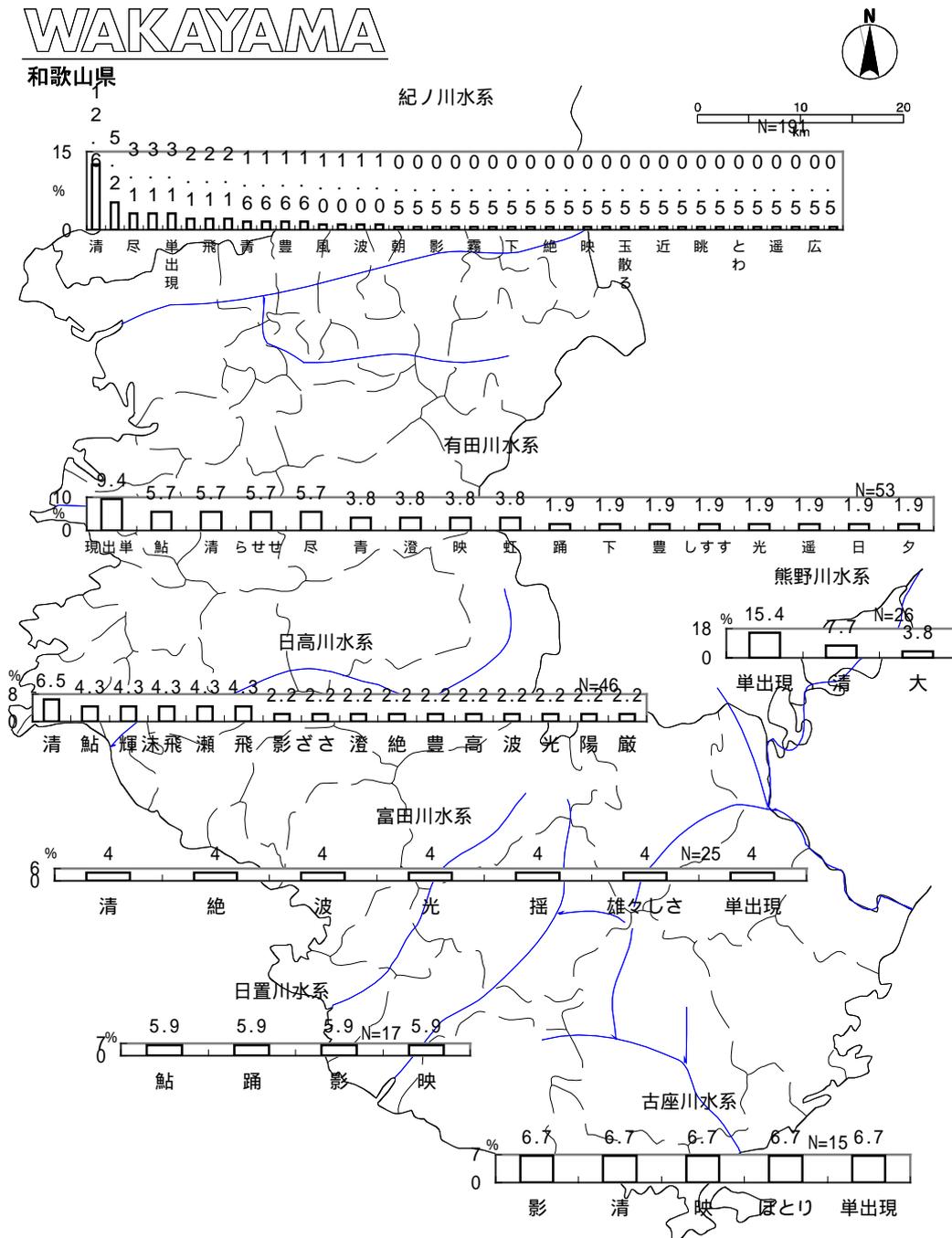


図 3-134 流域別イメージ要素頻度

流域で、最も多く出てくるイメージは、「熊野川水系」の“単出現”次いで、「紀ノ川水系」の“清い”を表す単語,「有田川水系」の“単出現”の順に多くなっており、「熊野川水系」,「有田川水系」そのものと綺麗な「紀ノ川水系」が認識されているといえる。

3-5 イメージ変遷分析

3-5-1 環境イメージ要素頻度分析(表 3-1)

現在の校歌になって増加している要素は、「学校」(0 18)があり、逆に減少している要素は、「道」(22 10)などになっている。

「学舎」が増減していないが、「学校」が増加していることから、旧校歌では、校舎のイメージであったが、現校歌では学校全体をイメージしていると考えられる。また、「道」が減少しているのは、校歌が教訓として「道」を教えなくなってきたと考えられることができる。

表 3-1 環境要素変遷表

分類	現校歌	旧校歌
学校	18	0
風	19	5
道	10	22
庭	14	5
緑	19	10
月	0	8
秋	3	10
黒潮	6	0
晴れ	6	0
丘	5	0
春	6	11

3-5-2 創立年別環境イメージ要素頻度分析(表 3-1)

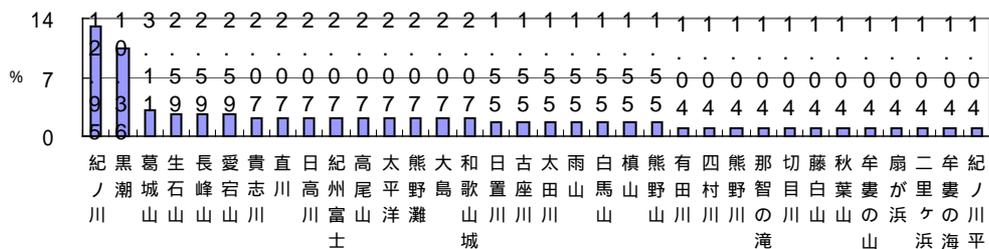


図3-135 1852-1945設立校頻度



図3-136 1946-1973設立校頻度

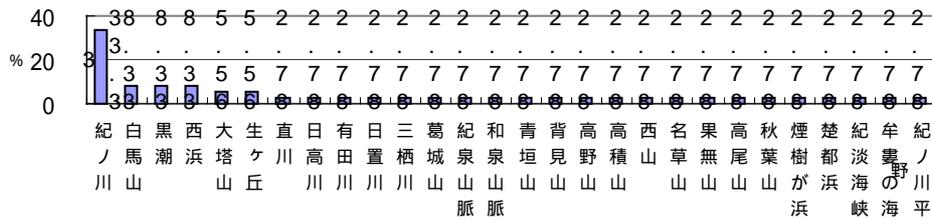


図3-137 1974-1994設立校頻度

表 3-1 年代別増減表

小分類	1852-1945	1946-1973	1974-1994
紀ノ川	12.95	10.30	10.08
黒潮	10.36	5.14	-7.17
葛城山	3.11	-1.56	1.23
生石山	2.59	-1.82	-0.78
長峰山	2.59	-2.59	0.00
愛宕山	2.59	-2.59	0.00
和歌山城	2.07	-0.52	-1.55
潮岬	0.00	3.10	-3.10
切目川	0.00	2.33	-2.33
亀川	0.00	2.33	-2.33
大日山	0.00	2.33	-2.33
名草山	0.00	2.33	0.45
大塔山	0.00	0.00	5.56
生ヶ丘	0.00	0.00	5.56
直川	0.00	0.00	2.78
紀泉山脈	0.00	0.00	2.78
青垣山	0.00	0.00	2.78
背見山	0.00	0.00	2.78
煙樹が浜	0.00	0.00	2.78

1852年から1945年創立の学校の校歌の中で、最も謳われている要素は、「紀ノ川」(12.95%)次いで、「黒潮」(10.36%)で、10%を超えるものはこの両者だけとなっている。

1946年から1973年創立の学校の校歌の中で、最も謳われている要素も、「紀ノ川」(23.26%)次いで、「黒潮」(15.50%)で、10%を超えるものはこの両者だけとなっている。

1974年から1994年創立の学校の校歌の中で、最も謳われている要素も、「紀ノ川」(33.33%)で、10%を超えるものは「紀ノ川」だけとなっている。

「紀ノ川」は新設校であるほど謳われる比率が10%ずつ高くなっており、「黒潮」は戦後直ぐの創立校が最も謳われており、石油危機後の創立校では謳われる比率が7%以上も減っている。また、潮岬は戦後直ぐの創立校で、3%存在するが、石油危機後0%になっている。更に、和歌山の「歴史」を代表している「和歌山城」の比率が漸減し、石油危機後には、0%になっている。

このことから、「紀ノ川」のイメージは、和歌山を代表するものとしての存在が大きくなって中、「黒潮」のイメージは、戦後直ぐの和歌山を代表するものであり、「大塔山」と「生ヶ丘」は、石油危機後イメージが出てきた新しい和歌山を出しているといえ、「和歌山城」は、戦前の和歌山のイメージであり、新設校には、あまり詠まれない和歌山の「歴史」を代表しているイメージであるといえる。

引用文献

1)西川好次郎(1985)：山びこよ雲にのれ，第一法規出版

2)ふるさと情報 <http://www.kinki.mpt.go.jp/kitene/denshi/wakayama/singu/huru4.htm>

